もっと石川

石川でしかできない上質な旅

石川県観光PRマスコットキャラクター
「ひゃくまんさん」

石川の観光を楽しく、便利に

旅のご相談、観光情報は「金沢駅観光案内所」「金沢中央観光案内所」で

石川県全域の観光案内に加え、金沢市内周遊バスの1日フリー乗車券・食事クーポンの販売、当日宿泊予約の案内、傘・長靴・車椅子の無料貸し出しなどのサービスを提供。英語による観光案内も行っています。

金沢駅観光案内所

宿泊先への手荷物配送サービス「手ぶら観光」を実施
《手ぶら観光》
旅先での大きな荷物は困りものですが、荷物を金沢駅で預ければ、その日のうちに宿泊施設まで配送してくれるサービスを利用すると便利（※宿泊者のみのサービス）です。エリアは石川県内全域と福井県あわら温泉です。
【料　　金】荷物1個700円～
（配送エリアにより異なる）
【受付時間】8:30～15:00（届け先により12:00まで）
に預け、宿泊施設にお届け
●料金等変更となる可能性があります。事前にご確認ください。

金沢駅に着いたらまずこちらへ！

〒920-0858 金沢市木ノ新保町1-1 JR金沢駅構内
TEL.076-232-6200　FAX.076-232-6210
◇営業時間／8:30～20:00　◇休業日／年中無休

金沢中央観光案内所

ご利用に便利な金沢市内中心部の南町（尾山神社向かい）に位置します。
《手荷物預かり》
【料　　金】荷物1個500円
【受付時間】10:00～20:30
（受付時間終了までに手荷物の引き取りをお願いします）
●料金等変更となる可能性があります。事前にご確認ください。

週末を中心に
伝統文化などの実演を実施

〒920-0919 金沢市南町4-1
TEL.076-254-5020
FAX.076-254-5028
◇営業時間／10:00～21:00
◇休業日／年中無休

芸術文化ナイトシアターの
詳細はこちらから

【表紙の帯デザインについて】

江戸時代から昭和初期までの「加賀のお国染」と言われる染織品、約2万点にのぼる花岡コレクションより、型染に使われていた絵柄を用いています。「お国染」とは、加賀友禅の起源とされる加賀地方に昔から伝わる独自の染め技法で、百万石の豊かなお国柄の中で培われた高い技術が反映されています。

観光ガイドブック「もっと石川」を手にされたみなさまへ

石川県は、2024年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」の復旧・復興に向けて取り組むなか、現在みなさまにお伝えできる観光情報につきまして、日々変化する状況にあります。この観光ガイドブック「もっと石川」におきましても、最新の情報に更新されていない箇所があることを、ご理解いただけましたら有難く存じます。これからも、多くの方々からのご支援と見守りをいただきながら、石川県の魅力の発信につとめてまいります。

もっと石川CONTENTS

本物の食を探し求める
もっと1 極上の食文化を楽しむ 2
もっと2 食べごろを見極めた職人のすし 6
もっと3 食を引き立てる地酒 10

伝統工芸を極める
もっと4 作家や職人の技を知る 12
もっと5 産地で学び、理解を深める 14

歴史ストーリーをめぐる
もっと6 加賀百万石の下で栄えた武家文化 16

石川の日本遺産をめぐる
もっと7 物資と文化を運んだ北前船の足跡 20
もっと8 古代より受け継がれる小松の石文化 22
もっと9 灯り舞う半島 能登～熱狂のキリコ祭り～ 25

大自然の魅力を体感
もっと10 世界農業遺産の島にステイする 28
もっと11 白山に登る 30

風景を切り撮る
もっと12 絶景に出会う 32

石川を深く知る新しい観光スタイル
もっと13 アーキテクチャ・ツーリズム 36

名作の情趣を味わう旅
もっと14 名作の舞台をめぐる 39
もっと15 松尾芭蕉の足跡をたどる 42

金沢港発着の贅沢な旅
もっと16 石川県からクルーズの旅を極める 44

県民気分で滞在する
もっと17 里山暮らし気分を堪能 48
もっと18 シーン＆目的で選ぶ宿泊スタイル 50

“今行ける能登”発信中!

『ほっと石川旅ねっと』で、能登の最新情報を随時更新中です!
詳しくはP35へ

【災害義援金について】
令和6年能登半島地震で被災された方々を支援するため、石川県では、日本赤十字社石川県支部及び石川県共同募金会と連携し、令和6年1月4日から令和7年12月26日の間、義援金を受け付けています。

詳しくはこちらから

石川の観光情報が盛りだくさん！
ほっと石川旅ねっと
石川県のエリア別、ジャンル別の観光スポットやイベント、モデルコースなどを紹介しています。スマホのGPS機能を使えば、現地で周辺情報の検索もできます。

こちらからアクセス！

各種石川県の観光パンフレットをWEBでもご覧いただけます！

他にもさまざまなパンフレットを公開中！

料理と器が奏でる加賀料理の神髄

四季折々の食材に恵まれ、数々の伝統工芸が息づく石川では、加賀百万石の文化にならい、その盛りつけに九谷焼や輪島塗の器などを使った優雅な今日の「加賀料理」が築かれました。

百万石の伝統と文化を目で味わい、季節ごとの豊かな幸を舌で味わう

古き良き日本を思い起こさせる伝統が数多く残る石川。この地を訪れる観光客の多くが楽しみにする「加賀料理」もその一つでしょう。加賀料理というと、漠然と「加賀百万石の豪華な料理」とイメージされますが、実は決まった定義がなく、加賀料理という名前自体、いつごろ定着したのか、よく分かっていません。

命名の由来には諸説ありますが、そのなかに吉田茂元首相の長男で、小説『金沢』を書いた作家、吉田健一が名付け親だという説があります。食通で知られる、この吉田健一が定宿にしていたのが料亭「つば甚」でした。もしかすると、料亭で供された料理がヒントとなって「加賀料理」というネーミングが発想されたのかもしれません。

「つば甚」の料理長、川村浩司さんは「加賀料理」をこのように考えています。「百万石の伝統が育んできた、加賀の食文化そのものです。豊かな自然がもたらす四季折々の海の幸、山の幸を尊重しながら料理し、料理が最も引き立つように器に盛ります。加賀料理とは器とともに目で味わい、舌で味わうものなのです」。

器という〝着物〟によって華麗に変身した郷土料理

「加賀料理」は繊細な技で食材の良さを極限まで引き出し、料理や季節と調和するように器の色や形、素材を吟味し、息をのむような美しさで盛りつけます。

たとえば「治部煮（じぶに）」と「鯛の唐蒸（からむ）し」は「加賀料理」を代表する料亭料理ですが、郷土料理でもあります。多くの料亭では「治部煮」は薄手で口が広く、底が浅い「治部椀」と呼ばれる専用の漆器で供し、同様に「鯛の唐蒸し」は極彩色に彩られた九谷焼の大皿に豪快に盛ることで、郷土料理が華麗な「加賀料理」へ変身していくのです。

「器は料理の着物」と言ったのは陶芸家であり、石川県とゆかりが深く、美食家としても知られる北大路魯山人です。ファッションが着る人を引き立てるように、料理もまた、器によってその美しさをより際立たせ、器の方も料理が盛られることでその真価を発揮します。

「加賀料理」は九谷焼や輪島塗、金沢漆器、山中漆器などの伝統工芸品を身にまとい、共演することで、文化・芸術のレベルまで引き上げられていきました。料理と器が奏でる興趣にこそ、加賀料理の神髄があります。

加賀百万石が世界に誇れる料亭の美学

加賀百万石以来の歴史と伝統文化が凝縮された石川の料亭。料理はもちろん、器や座敷、調度品、庭、女将の立ち振る舞いに至るまで、この地ならではの「もてなしの心」が込められています。

武家文化のもと育まれた最上級のもてなしの心

石川県内でも特に金沢は料亭の多いまちです。料亭のみが所属できる「金沢市料理業組合」への加入店が13軒（2025年2月現在）あり、人口50万人弱の都市で、これだけの料亭を持つのは全国でもきわめて稀な例といえるでしょう。

藩政期、あるいは明治以来の伝統を持つ老舗料亭には、名だたる文人墨客が愛用した座敷や管理の行き届いた庭園が今も残され、掛け軸や器類などの調度品、美術工芸品とともに、時代を経た今も料亭の一部として利用されています。それらは、まさに加賀百万石以来の歴史を知る「生き証人」のようなものといえます。

風土が育んだ気配りと立ち振る舞い

料亭でいただく料理は、食材や盛り付け、器に至るまで、春夏秋冬の旬を表現し、日常生活で忘れがちな季節感を思い出させてくれます。そして、忘れてはならないのが、女将や仲居たちの気配りや立ち振る舞い、言葉遣いです。

たとえば金沢では、藩政期以来発達してきた茶の湯にも通じる「もてなしの心」が脈々と息づいており、それが「金沢しぐさ」ともいわれる所作にあらわれています。

とはいえ、料亭と聞くと敷居が高く、「一見さんお断り」というイメージが依然としてあるのも事実でしょう。けれどご心配なく。石川の料亭は、どこでも初めての客も温かく迎えてくれます。

石川の「美味」をささえる

その1

石川県では、魅力あふれる県産農林水産物を、地域の宝とするための取り組みを進めています。2022年に県独自の優れた農林水産物を「百万石の極み」と認定し、統一ブランド化。ルビーロマンや能登牛、加能ガニなど20品目が選出されました。いずれも里山里海の豊かな自然にはぐくまれ、それぞれに優れた特長をもち、さらに厳格な品質基準を満たした品目だけが「百万石の極み」として認定されています。「百万石の極み」認定品目を扱う販売店舗や飲食店等には、ロゴマークの掲示やのぼりが設置されています。石川を旅する際には、「百万石の極み」をぜひ味わってみてください。

百万石の極み

「百万石の極み」に認定されたことを表すロゴマーク

石川県農林水産部ブランド戦略課
☎076-225-1614　詳しくはこちらから▶

その2

「加賀料理」の無形文化財への登録をめざし、石川県では「治部煮」や「鯛の唐蒸し」などに代表される加賀料理の歴史的背景やおもてなしの場でのしつらえなどの調査を進めています。また、石川の食文化を担う全国に誇れる人材を顕彰し、その技術の継承と後継者育成につなげるため令和5年度に「いしかわの食の巨匠顕彰制度」を創設し、石川の食文化の充実をはかっています。

「魚・米・水・技」〝四位一体〟が石川の「すし」

石川を訪れた観光客に食べたいものを聞けば、「すし」と答える人は多いでしょう。「石川のすし」は豊かな自然と歴史が育んだ魚・米・水・技の「四位一体」が織りなす「食の芸術品」です。

「新鮮=美味」にあらず。最もおいしい瞬間に提供

すしの違いというと、「回転するすし」と「回転しないすし」程度に思っている人が多いかもしれません。それぞれに個性がありますが、人々を魅了する「石川のすし」の個性とは一体なんでしょうか。

すしネタは近海で獲れた地魚を中心に、産地直送の新鮮なものを吟味して仕入れている―というのであれば、あるレベル以上の店なら、全国どこでもやっていることでしょう。それ以上のことをやっているから、「石川のすし」は「石川のすし」たりえているのです。その秘密はいくつもあります。

日本人は「魚は新鮮が一番」と信じている傾向があります。しかし、石川のすし職人は「新鮮=おいしい」とは安易に考えていません。鮮度を「食感がコリコリしている」と表現することがありますが、実はこの形容は天然物の専売特許ではなく、養殖物だって活け締めしてすぐは「コリコリしている」のです。

石川のすし職人は、お客が食べる瞬間に最高の状態になるように、材料を吟味し、手間をかけて仕事をしています。たとえ同じ魚でも、季節や大きさが違えば、脂の乗り方や身の締まり方が異なってきます。それを慎重に見極めながら、塩の量や寝かす時間などを微妙に変え、魚それぞれの最高の状態、すなわち、「魚のうまみが最も増した状態」を引き出していくのです。

米どころ・水どころ 工芸王国が生んだ「すし」

しかし、おいしい魚を食べるだけなら、刺身でも事足りるでしょう。「すしはネタ四分、シャリ六分」と言われるように、おいしいすしは、シャリとすしネタの絶妙なバランスから生まれます。そのどちらが欠けても、おいしいすしとはなりません。

石川は、日本海でも有数の好漁場に恵まれた場所であるとともに、おいしい米のとれる「米どころ」、さらに名水が欠かせない日本酒において、石川の地酒が確固たる評価を得ていることでもわかるように、「水どころ」でもあります。よい米、よい水があって、初めてよいシャリはでき上がります。「魚・米・水」が織りなす三位一体が「石川のすし」が特別である2つ目の理由です。

むろん、すし職人の技も忘れてはなりません。石川県には今も数多くの伝統工芸が息づき、そうした歴史的土壌が育んだ美的センスはすし職人にも受け継がれています。

目の前に置かれた1貫のすし。それは確かな職人技と魚に関する深い造詣、豊かな感性が紡ぎ出した、まさに「食す芸術品」といえるでしょう。

魚のよさにふんぞり返らない 基本にこだわる石川のすし職人

日本海の新鮮なネタを最高の状態で提供するために、石川のすし職人は知恵を絞り、さまざまな趣向を凝らしています。石川県鮨商生活衛生同業組合の前理事長、「千取寿し」のご主人、吉田勝昭さんにこだわりの一端を聞きました。

シャリ・ガリ・海苔の「3つの〝り〟」を重視

「いくら輸送手段が発達したとはいえ、石川に来なければ〝本当のおいしさ〟を味わえない魚介類はブリや甘エビをはじめ、たくさんあります。でも、石川で魚がよいのは当たり前。ここのすし職人は、素材のよさにふんぞり返っていません」と語るのは、金沢で昭和28年創業の「千取寿し」2代目、吉田勝昭さんです。石川のすし職人の多くは、ネタの吟味もさることながら、「3つの〝り〟」、つまり「シャリ・ガリ・海苔」を大事にしていると言います。いずれも、それ自体では商品にならないもの。でも、だからこそ、基本で手を抜いてはいけない、と考えているのです。

たとえば、「千取寿し」のシャリは「地獄炊き」と呼ばれる方法で釜と薪を使って炊いています。こうすることで、米のうまみを閉じ込めつつ、粘りを抑えたスッキリとしたシャリが炊き上がるのだそうです。「〝利〟を考えるのであれば、電気炊飯器を使った方がよほど経済的です。それでも創業からずっと地獄炊きにこだわるのは、おいしいシャリができるからなんです」。

使用する井戸水は、近所の酒蔵が仕込みに使うのと同じ白山の伏流水というから、なんとも贅沢。そんな、「これだけは譲れない」「とことん、こだわっている」「どこにも負けない」という自負をもった店主たちが切り盛りしていてこその、石川のすしといえます。

百万石の鮨をベースに、「百万石の極み」と「百万石乃白」を使った、石川の海や山の幸を存分に堪能できる鮨会席「百万石の鮨・幸」コース

「煮きり」使わず地物の醤油で勝負

もう一つの「り」にもこだわりがあります。全国のすし店では、みりんやダシなどを加え、醤油独特の風味を消した「煮きり」を使うことが一般的ですが、石川では「煮きり」を使わない店が多いとのこと。地物魚やシャリと相性のよい〝じわもん〟の醤油がすでにあることもあって、わざわざ「煮きり」を使う必要がありません。

石川のすし職人は、シャリを握る加減は「強からず、弱からず」を心がけています。指先でつまんで口元に運ぶまでの間に崩れない。そして、すしを口に入れた瞬間、ふんわりとほぐれて口の中で溶けていく。そのあんばいはこれぞすし職人の至芸です。

腕自慢、味自慢の店主や気さくな職人さんと、カウンター越しに交わす会話も大きな魅力といえるでしょう。

石川のすしを堪能するなら「百万石の鮨」

旬の地魚を中心に、こだわり抜かれた特選10貫セット「百万石の鮨」が、石川県内の参加加盟店にて味わうことができます。丹精込められた地元米のシャリに、石川だからこそ提供できる最高の旨さと奥深さが自慢のすしです。また、百万石の鮨をベースに、石川県独自のブランド食材を使った料理と、石川の酒米による地酒を含む贅沢な鮨会席「百万石の鮨・幸」を提供する店舗もあります。

※価格は提供店舗ごとに異なります。店舗一覧および詳細はこちらからご確認ください。

※2025年2月現在の情報です。

酒蔵を巡り、石川の食文化の奥義を知る

純米大吟醸を搾る。この様子は映像での鑑賞となるが、搾りたての酒を試飲させてくれる

日本酒は米と水と微生物に人の力が加わって造り出されるもの。石川県は「五百万石」「石川門」など酒造好適米（酒米）の名産地であり、最高峰の酒米「山田錦」、“ダイヤの原石”と期待される石川県の新しい酒米「百万石乃白」を使用するなど、石川県の酒蔵は良質な酒米にこだわっています。水は手取川をはじめ清らかで豊かな伏流水に恵まれ、さらに、高い技術を持つ能登杜氏の存在も大きく、名実ともに日本を代表する酒どころと言われます。

里山里海の幸と渡りあう 濃醇旨口の酒が多い

和食の基本、醤油、味噌、米酢、みりんはいずれも麹による発酵調味料で、日本酒と和食の相性のよさは言わずもがな。ふぐの子糠漬けやかぶら寿しなど石川県独特の発酵食とのマッチングも抜群で、日本海の幸や里山の幸を一層引き立ててくれます。

石川県の酒は「特定名称酒※」が占める割合がとても高く、純米酒の比率は全国でもトップクラスです。いい材料を使い、手間暇をかけて真面目に造られる、それが石川の酒の特徴と言えます。

そんな石川の酒の神髄を知るには、酒造りを行っている現場、つまり酒蔵を見学するのが近道です。

※普通酒に対し、「吟醸酒」「純米酒」「本醸造酒」は特定名称酒と呼ばれ、それぞれの原料・製造方法などの条件が定められています。

自然と対話しながら醸す、神事とされる酒造り

金沢市にある「福正宗」「加賀鳶」などの銘柄で知られる福光屋は、生産量1万石以上の規模では日本で初めて純米蔵となった酒蔵です。300株もの酵母を保存して、飲み手の好みやシーンにあわせて選べる多彩な銘柄を展開しています。

福光屋の酒蔵見学は酒造りシーズンの11月から3月に開催。見学は有料ですが、他にはなかなかない中身の濃い見学ができると人気です。自然の摂理と真正面に向き合う日本酒造りを間近で観察することで、酒造りを深く理解できます。さらに季節限定酒や定番のお酒を、専属ガイドなどの説明を聞きながら飲み比べ、日本酒の高度な知識と感覚が体得できます。石川の食に欠かせない地酒を究めるなら、酒蔵に出向いて酒造りのプロ（エキスパート）の話に耳を傾けてみてはいかがでしょうか。

重要な工程「酒母造り」を間近で見学

福光屋　MAP▶②金沢市街 C-1
●金沢市石引2-8-3　☎076-223-1117
■酒蔵見学
純米造りの日本酒を身近に感じていただくための酒蔵見学を開催
〈蔵内コース〉11～3月下旬
〈唎き酒コース ベーシック〉通年
〈唎き酒コース プレミアム〉通年　など
●各コースの開催日程、開催・所要時間、参加費などの最新詳細情報はオフィシャルサイトでご確認ください。いずれも予約制

金沢地酒蔵　MAP▶②金沢市街 A-2
●金沢市木ノ新保町1-1（金沢百番街内）☎076-260-3739
営8:30（バーは11:30）～20:00　休不定休
金沢駅「あんと」にある「金沢地酒蔵」のバーコーナーでは石川の地酒が飲み比べできるほか、県内蔵元の約400種類のお酒を販売

予約すれば酒蔵見学ができる蔵元

●長生舞〔久世酒造店〕	河北郡津幡町清水イ122	☎076-289-2028	300円（試飲可・買物時に割引利用可）。通年受付・要予約。水・日曜休
●加賀鶴〔やちや酒造〕	金沢市大樋町8-32	☎076-252-7077	完全予約制につき要問合せ。酒蔵見学と試飲●9名以下1,500円●10名以上1,100円（いずれも買物時に1,000円割引利用可）。日曜・祝日休
●御所泉〔武内酒造店〕	金沢市御所町イ22乙	☎076-252-5476	見学日時は応相談
●夢醸〔宮本酒造店〕	能美市宮竹町イ74	☎0761-51-3333	酒蔵見学と試飲500円（買物利用可）。要予約。土曜は不定休、日曜・祝日休
●神泉〔東酒造〕	小松市野田町丁35	☎0120-47-2302	要予約。酒蔵見学（試飲付き）1,100円。日曜休
●加賀ノ月〔加越〕	小松市今江町9-605	☎0761-22-5321	10月下旬～4月中旬受付。土・日曜・祝日休。15名まで。要予約
●春心〔西出酒造〕	小松市下粟津町ろ24	☎0761-44-8188	日本酒飲み比べ（有料）。要予約。木・日曜休。蔵CAFEぐるり土曜営業

※上記の情報は2025年2月現在です。記載がないものは見学・試飲は無料。
※見学は必ず予約をお願いします。直前の予約は対応できない場合もありますので、早めのご予約を。年末年始（一部を除く）は休業です。繁忙期など見学できない日もあります。
※断りがないものは通年見学受付していますが、酒造り時期以外は仕込み作業を見ることはできません。詳しくは各蔵元へお尋ねください。

加賀友禅を通じて知る作家の技と心

加賀友禅の技法を使った彩色体験の様子

気品ある立ち姿が美しい加賀友禅のきもの。一反の白生地から一枚のきものが完成するまでには多くの工程があります。手描き加賀友禅の中でも最も華やかなのは、絵模様を染め上げる彩色の工程で、加賀友禅作家が丁寧に筆を走らせ、さまざまな色を挿していきます。きものを染めるのと同様の本格的な彩色を体験し、作り手の技と心を身近に感じてみませんか。

加賀友禅が生まれる場所を訪ね 知的好奇心を満たす

兼六園や金沢21世紀美術館から歩いて10分。金沢市本多町界隈は、かつて加賀藩家老・本多家の下屋敷があった地区で、今も細い路地が続く金沢らしい古いまちなみが残ります。そんなまちの一画にある毎田染画工芸は、3代続く加賀友禅作家の工房です。3代目の毎田仁嗣さんは、「ものづくりが暮らしの中にあるのが金沢。工芸という生業が日常の中でごく自然に、いきいきと営まれているのは、他の地域にはない魅力です」と語ります。加賀友禅は、各工程を専門の工房で行う分業制が基本ですが、同工房では作家の目が行き届く中で全工程を一貫して行っています。

毎田染画工芸の2階にオープンした加賀友禅の「Glass Yuzenギャラリー」。ガラスに加賀友禅の生地を熱圧着して仕上げた巨大なパネルが、バックライトの光で美しい模様を浮かび上がらせている

そもそも「友禅」とは、「友禅染め」を略したことばで、絵模様の輪郭に糊を置くことで色がにじむのを防ぎ、思いのままの絵を布に染める技法のこと。本来なら制作には複雑な工程と職人技が必要とされますが、同工房では、加賀友禅の魅力を知ってもらうきっかけになればと、本格的な友禅染に挑戦する体験を受け入れています。自ら筆を持つ前に、毎田さんや職人さんの説明に耳を傾けながらの工房見学もでき、加賀友禅の技術とストーリーのすべてが集約されています。

「伝統を守ることと新しいことに挑戦することの両輪で、加賀友禅は今に引き継がれ、そして次の時代にも継承されていきます」と毎田さん。人の手でクリエイティブなものが生み出されていく、そのリアルな現場を見て理解して、まるごと体験してください。

彩色体験で染めた生地をガラスに熱圧着し、オリジナルのガラス皿に仕上げてもらえる

加賀友禅染め体験

糊置きされた生地に友禅染を施す体験（加賀友禅ガラス皿・風呂敷制作など）ができるほか、ピアス・イヤリング用彩色体験、工房見学もあり（2025年2月現在）。詳細は事前にお問い合わせください。

毎田染画工芸
MAP▶②金沢市街C-1
●金沢市本多町3-9-19
☎076-221-3365

さらにもっと!

石川の伝統的工芸品をまとめて知るなら!

「いしかわ生活工芸ミュージアム」では、県内伝統的工芸品36業種の魅力を紹介する常設展示のほか、伝統工芸の「いま」を紹介する様々な企画展を開催しています。また、毎週土・日曜の実演・体験や企画展ごとのワークショップなど、各種工芸イベントを楽しむことができます。

ミュージアムショップで工芸品選びが楽しめる

いしかわ生活工芸ミュージアム MAP▶②金沢市街B-1
●金沢市兼六町1-1 ☎076-262-2020
開9:00～17:00 休第3木曜（4～11月）、毎週木曜（12～3月）、年末年始 ※祝日の木曜除く ¥1階:無料 2階:18歳以上260円、65歳以上210円、17歳以下100円、6歳未満無料

左：「色絵百花手唐人物図大平鉢」（古九谷）
右：「百合図平鉢」（吉田屋窯）
いずれも石川県九谷焼美術館蔵

九谷焼のふるさとを訪ね、本物にふれる

石川が世界に誇る伝統工芸のひとつ「九谷焼」。江戸期に山中温泉九谷の地で始まり発展していきました。発祥の地ならではの九谷の歴史を辿りながら、本物に出合う楽しみを見つけます。

九谷焼の誕生と魅力

九谷焼は、江戸時代初期に大聖寺藩領内九谷村（現在の石川県加賀市山中温泉九谷町）で作られた前田家の御用窯です。焼かれた「地名」をとってその名が付けられました。最も早い時期に作られたこれらの九谷焼を今は「古九谷」と呼びます。寛永16（1639）年に大聖寺藩が創設されたと同時に、大聖寺藩邸から約16km離れた小松城には加賀藩主であった前田利常（利治の父）が隠居しました。時の前田家当主・利治（21才）はまだ若く、利常（46才）の影響下、古九谷が作られたものと考えられています。

寛文12（1672）年の『加賀往来』では「大正持焼茶碗」、貞享3（1686）年の『臘月庵日記』では「水さし九谷焼」、「茶碗九谷」、元禄末（1700）頃の『三州名物往来』では「大聖寺焼染附茶碗」とあります。古九谷は、大聖寺（大正持）焼や九谷焼と呼ばれていたようであることが分かります。

古九谷が最初に焼かれたのがいつなのか、そしていつまで焼かれていたのかは実ははっきりとは分かっていません。今に残された伝世品の中では「承應弐歳」の銘があるものが一番古いことから、少なくとも承応2（1653）年にはすでに焼かれていたと言えます。また、古九谷の活動について記した江戸期の複数の文献のうち、享保21（1736）年に出された『重修加越能大路水經』には「今は絶えたり。」との記述があることから、享保21（1736）年にはすでに古九谷は絶えていたことがわかります。文化2（1805）年には若杉窯が、文化4（1807）年には春日山窯が開窯しました。これらの窯を皮切りに、明治に至るまで少なくとも「17種類」の九谷焼の窯々が現在の石川県内で焼かれ、これらを「再興九谷」と呼びます。

古九谷の魅力はなんと言ってもまずその構図にあります。画面構成は主に2種類で、一つは器一面に絵画を描く「総絵」、もう一つは見込み（中心部分）に主題を描きその周辺に小紋を埋める「二段構成」のものです。画題には山水風景図、植物図が最も多く、幾何学文、人物・動物図等には優れたものが認められます。主に赤、緑、紫、紺青、黄の色釉薬を用いて作られていますが、赤以外の色が分厚く盛り上げられているため、発色が良く、光沢度の高いことが特徴です。古九谷は、出来栄えの良さとその希少価値により、日本の焼物の中でも特に高い評価をされています。

「古九谷は実は有田で作られた焼物である」という古九谷伊万里説もありますが、古九谷の伝世品が石川県を中心に特に大聖寺に多く残っていることや2万点を超える出土資料が九谷村の九谷古窯跡で確認されていること、九谷焼の技法が現代まで石川県のみで継承されていることはまぎれもない事実です。何よりも「古九谷」という名前そのものが真実を物語っているのではないでしょうか。

古九谷は今も多くの人々を魅了してやみません。

文／石川県九谷焼美術館 副館長・学芸員　中越康介

九谷焼窯跡展示館　MAP▶⑤加賀周辺
●加賀市山代温泉19-101-9　☎0761-77-0020
時9:00～17:00 休火曜（祝日開館）
¥一般350円、75歳以上170円、高校生以下・障がいのある方無料
江戸後期に築かれた吉田屋窯の跡（国指定史跡）を発掘された状態のまま公開。九谷焼としては現存最古の登り窯もある。

九谷磁器窯跡
MAP▶①A-4
●加賀市山中温泉九谷町
☎0761-72-7888
（加賀市文化課）
山中温泉より大聖寺川沿いにさかのぼった山麓にある「九谷焼」が初めて作られた場所。日本最初期における磁器生産の様相を呈した遺跡として、昭和54（1979）年に国指定史跡。

石川県九谷焼美術館　MAP▶⑤加賀周辺
●加賀市大聖寺地方町1-10-13　☎0761-72-7466
時9:00～17:00 休月曜（祝日開館）、年末年始は開館 ¥一般560円、75歳以上280円、高校生以下・障がいのある方無料 ※特別展は要別途
古九谷をはじめとし、吉田屋などの再興九谷諸窯、近現代九谷を網羅的に展示する日本で唯一の九谷焼の専門美術館（登録博物館）。

魯山人寓居跡いろは草庵　MAP▶⑤加賀周辺
●加賀市山代温泉18-5　☎0761-77-7111
時9:00～17:00 休水曜（祝日開館）
¥一般560円、75歳以上280円、高校生以下・障がいのある方無料
芸術家であり美食家として知られる北大路魯山人が半年ほど滞在した寓居を当時のままに公開。この間、九谷焼を学んだ。

詳しくは
ほっと石川旅ねっとへ

●九谷焼の聖地を訪ねる旅

加賀温泉駅（午前発）＝車15分＝九谷焼窯跡展示館 徒歩8分 窯元須田菁華 徒歩3分 山代温泉古総湯 徒歩3分 魯山人寓居跡いろは草庵
＝車15分＝石川県九谷焼美術館＝車40分＝九谷磁器窯跡＝車40分＝加賀温泉駅（もしくは加賀温泉郷泊）

※車の所要時間はおおよそのものです。

金沢城と兼六園、百万石の武家文化の中心を訪ねる

今日の石川に息づく伝統工芸や芸能の多くは、加賀藩政時代に取り入れられたものです。2020年には江戸初期の創建とされる「鼠多門」が金沢城公園に復元。金沢城公園と尾山神社を結ぶ「鼠多門橋」が完成。長町武家屋敷跡界隈から尾山神社を経て金沢城公園、兼六園、本多の森公園に至る、加賀百万石回遊ルートを中心にまちを丹念に歩けば、加賀の武家文化の素晴らしさに出合えます。

築城の歴史がここにある

加賀前田家102万石の支配地は加賀・能登・越中の3カ国にまたがり、5万石の本多家、3万石の長家など1万石以上の家老が8家もおり、足軽まで加えると約2万の武士・軽輩が城下町に屋敷を構えていました。そのど真ん中に金沢城があり、政治・文化の中心をなしていました。小立野台地先端にあった金沢城は、藩祖前田利家が百間堀を掘り本丸に高石垣や天守を築いた頃、台地から切り離され四方に堀をめぐらす独立の城地となり、それから280年、変わらず前田家の城、武家の拠点として歴代藩主がここに君臨したのです。

なかでも石川門は、江戸中期の火災で焼失し1788（天明8）年に再建され、今も城下を見守る金沢城のシンボルで、城内に残る最古の歴史遺産（重要文化財）です。城門として防御機能を当然備えていますが、白壁と鉛瓦、海鼠壁のつくる美観は金沢らしい意匠といえます。石川門から三の丸広場に進むと、河北門、菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓・橋爪門が復元されており、江戸時代にタイムスリップした感覚を覚えます。明治時代に陸軍の兵営となり、戦後は金沢大学のキャンパスであった歴史を忘れ、江戸時代の武士として登城してきたような錯覚にとらわれるでしょう。

復元された橋爪門は、殿様の住む二の丸御殿に至る正門です。ここを起点に本丸を散策すると兼六園や城全体を俯瞰でき、二の丸の西側にある玉泉院丸庭園も一望できます。

金沢城公園　MAP▶②金沢市街 B-1・2
右から、発掘調査や絵図文献資料などを元に復元された河北門・菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓・橋爪門
●金沢市丸の内1-1　営3月1日～10月15日　7:00～18:00、10月16日～2月末日　8:00～17:00、菱櫓など内部は9:00～16:30　休年中無休　¥入園料無料　菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓・橋爪門は大人（18歳以上）320円、小人（6歳～18歳未満）100円　※河北門、鼠多門は無料

金沢城公園・兼六園に関するお問い合わせ
●石川県金沢城・兼六園管理事務所　☎076-234-3800

※「令和6年能登半島地震」の影響により、金沢城公園・兼六園では、一部エリアへの立ち入りを禁止しています。最新の情報はWEBサイトをご確認ください。

辰巳用水と兼六園噴水

兼六園の噴水は、金沢城二の丸に辰巳用水の水をあげるため、試作したものと言われています。現存する日本最古と言われる噴水で、自然の水圧によって水が吹き上がっています。

兼六園　MAP▶②金沢市街 B-1
国の特別名勝。唐崎松の雪吊り、根上松の奇観、初代が天然記念物だった兼六園菊桜など季節ごとに数々の見どころがある。
●金沢市兼六町1　営3月1日～10月15日　7:00～18:00、10月16日～2月末日 8:00～17:00　休年中無休　¥大人（18歳以上）320円、小人（6歳～18歳未満）100円

兼六園から成巽閣へ

石川門の向かい側に日本三名園のひとつ、兼六園が広がります。5代綱紀が手がけた城の外庭で、藩主の別荘があり接客の場でした。夕顔亭・翠滝付近は創建当初の姿がよく残り、霞ヶ池・徽軫灯籠・唐崎松付近には12代斉広の隠居所（竹沢御殿）が作られました。斉広はこの庭を愛し「兼六園」と命名、文人大名として知られる松平定信に揮毫を頼んでいます。斉広の死後、13代斉泰は父斉広を慕い、霞ヶ池や栄螺山をつくり「兼六」の名に恥じない庭作りにつとめました。

兼六園の東隅にある、成巽閣は斉広夫人のため1863（文久3）年、斉泰がつくった母君の御殿です。今も飛鶴庭など武家の庭園文化の奥深さを堪能できます。女性の御殿らしい細やかさと紅殻やウルトラマリンブルーの色壁など大胆な彩色に圧倒されます。

石川県立美術館・国立工芸館へ

成巽閣の表玄関を出て海鼠壁の辰巳長屋に沿って南に向かうと、石川県立美術館と国立工芸館が正面に見えてきます。国立工芸館の建物は、明治期の金沢城二の丸跡に置かれた旧陸軍の第九師団司令部庁舎（1898〔明治31〕年創建）と、1909（明治42）年に造られた金沢偕行社

（陸軍将校の社交館）の建物を移築し再活用しました。左手が旧陸軍第九師団司令部、右手が旧陸軍金沢偕行社です。今回の移築にあたり、創建時の外観色彩が判明したので、当初の色に戻すとともに、第九師団司令部庁舎は過去（1968［昭和43］年）に移築した際に撤去された両翼部分を復元し、かつての姿に再現されました。工芸館にふさわしい凛とした雰囲気で、多くの入館者を迎えています。隣の石川県立歴史博物館のレンガ建物も旧陸軍の兵器庫の転用ですから、明治・大正期の洋風建築をこの界隈で楽しめます。

尾山神社から武家屋敷跡へ

金沢城公園の新しい入口が2020年に復元されました。尾山神社の境内を通り抜け、整備された鼠多門橋を渡り、鼠多門を通ると城内です。このルートを使えば玉泉院丸庭園そして二の丸・本丸へと城の中心に一気にアクセスできます。三の丸広場に出れば石川門へ、そして兼六園・国立工芸館へと散策できます。いっぽう、尾山神社から反対方向に歩けば、城下に広がる武家屋敷跡へと真っすぐな道が続きます。金沢中央観光案内所の前を西に真っすぐいけば外惣構の用水路、さらに進み大野庄用水にぶつかり、この用水沿いに南下すれば、足軽屋敷が2棟並んだ金沢市足軽資料館、その裏手に聖霊病院聖堂（昭和初期の和洋折衷の教会建築）の尖塔も見えます。さらに南下すると、中級武士が住んでいた長町武家屋敷跡の町並み、城下の豪商中屋（薬種商）の建物を移築した金沢市老舗記念館、前田土佐守家資料館とつづき、城下町に大きな面積を占めていた武家地の雰囲気を堪能できます。

文／石川県金沢城調査研究所前所長　木越隆三

鼠多門・鼠多門橋　MAP▶②金沢市街 B-2
海鼠壁の目地が黒漆喰で仕上げられ、他の門には見られない特徴の鼠多門。鼠多門橋は金沢城公園（玉泉院丸庭園）と尾山神社をつなぐ
営鼠多門／9:00〜16:30　休年中無休　¥無料

「玉泉院丸庭園」で異色の石垣を楽しむ

3代利常が作庭した「玉泉院丸庭園」。池泉に辰巳用水を引き込み、高低差を生かし周囲の石垣までも庭の一部に取り込んだ異色の庭です。その後も5代綱紀、13代斉泰などが庭作りを続けたものの明治初期に廃絶。2015年に再現された、周辺に見て楽しめる洒落た石垣が多いユニークな大名庭園です。色紙短冊積石垣は、5代綱紀時代の庭作りをしのばせる異色の庭園石垣となっています。

●加賀百万石の歴史を1日ゆっくり堪能

金沢駅 ═（バス10分）═ 前田土佐守家資料館 ┆（徒歩すぐ）┆ 金沢市老舗記念館から長町武家屋敷跡界隈、金沢市足軽資料館へ
┆（徒歩10分）┆ 尾山神社〈鼠多門橋・鼠多門利用〉 ┆（徒歩5分）┆ 金沢城公園、兼六園（園内散策） ┆（徒歩すぐ）┆ 成巽閣 ┆（徒歩5分）┆ 石川県立歴史博物館
┆（徒歩すぐ）┆ 国立工芸館、石川県立美術館へ ═（バス20分）═ 金沢駅（もしくは金沢泊）

詳しくは
ほっと石川旅ねっとへ

※所要時間はおおよそのものです。

加賀藩の歴史と文化の探訪へ！　〜加賀百万石回遊ルートをめぐる〜

詳しくは 加賀百万石回遊ルート 検索

●成巽閣
加賀藩13代藩主前田斉泰が母である12代奥方眞龍院のために建造。加賀藩主・前田家にゆかりのある建物と庭園、美術工芸品など、すべてが当時を知ることができる唯一のもの
金沢市兼六町1-2　☎076-221-0580
営9:00〜17:00 休水曜（祝日の場合は翌日）、年末年始　¥一般・大学生700円、中高生300円、小学生250円（企画展）※特別展は別途料金

●石川県立美術館
加賀藩前田家ゆかりの古美術品のほか、石川県ゆかりの作家を中心に幅広く収蔵・展示。数々の名品の中でも国宝「色絵雉香炉」は必見
金沢市出羽町2-1　☎076-231-7580
営9:30〜18:00 休年末年始、展示替え期間
¥一般370円、大学生290円、高校生以下無料

●石川県立歴史博物館
国指定重要文化財「旧金澤陸軍兵器支廠（ししょう）」の赤レンガ建物を活用。石川の歴史と文化を紹介
金沢市出羽町3-1　☎076-262-3236
営9:00〜17:00 休年末年始、展示替え期間
¥一般300円、大学生240円、高校生以下無料

●国立工芸館
日本で唯一の近現代工芸・デザイン作品を専門とする国立美術館として、多彩で魅力的な展覧会を開催
金沢市出羽町3-2　☎050-5541-8600（ハローダイヤル）
営9:30〜17:30
休月曜（祝日の場合は翌平日）、年末年始、展示替え期間
¥展覧会によって異なる

●金沢市足軽資料館
藩政時代の貴重な足軽屋敷2棟を移築再現し、足軽の職務や日常生活の様子を展示、解説
金沢市長町1-9-3 ☎076-263-3640
営9:30〜17:00 休年中無休 ¥無料

●前田土佐守家資料館
加賀藩重臣 前田土佐守家の伝来品を中心コレクションとし、金沢や加賀藩の歴史を語る資料を展示する博物館です
金沢市片町2-10-17　☎076-233-1561
営9:30〜17:00 休月曜（祝・休日の場合はその直後の平日）、年末年始、展示替え期間 ¥一般310円、65歳以上210円、高校生以下無料

石川の日本遺産をめぐる

もっと7 物資と文化を運んだ北前船の足跡

大いなる繁栄をもたらした海と陸の物流

航海の安全を祈願した船絵馬（北前船の里資料館蔵）

古代から近代にかけ、県内各地に大いなる繁栄をもたらした物流の変遷を、名所・旧跡からたどります。石川県では、日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」に、加賀市、輪島市、小松市に続き、金沢市、白山市、志賀町が認定されており、当時の北前船の壮大な世界を今に伝えています。

※本文は「物資と文化を運んだ北前船の足跡」をテーマに2023年12月以前に執筆されたもので、「令和6年能登半島地震」以降の状況とは異なることをご了承ください。

古来より大陸との交流のあった地

石川県は、日本列島のほぼ真ん中にあり、古くから交通・交流の要所として発展してきました。古代には、大陸からの使いが福浦湊をめざして渡来。羽咋の氣多大社も、客人（まれびと）をもてなす儀礼や祭祀の空間に通じるとの説もあります。

近世、加賀藩の時代に至ると、半島沿岸の良港は北前船の港として賑わいます。遠く蝦夷地から瀬戸内・畿内の品々と文化が、この地にもたらされました。その名残りは、例えば、總持寺祖院（そうじじそいん）の玄関、黒島（門前町）の伝統的な町並みや豪壮な天領祭りの山車をはじめ、輪島や七尾（所口）など、能登の各地に見ることができるでしょう。

海路と陸路による恩徳

もちろん北前船といえば、加賀の橋立や塩屋・瀬越、小松の安宅、手取川河口の美川に残る船主屋敷と贅を尽くした調度品にも、その栄華をしのぶことができます。安宅住吉神社には、今でも多くの船絵馬が保存されています。

一方、陸路に関していえば、古代の北陸道にはじまり、近世、大名行列が往来した北国街道も、沿道に豊かな経済・文化の恩徳をもたらしました。野々市・松任・寺井・津幡などの街道の街並みが、時代を超えて私たちを宿駅、宿場に運んでくれます。

鉄道による交通革命

しかし、その画期となったのは、何といっても明治30年代の北陸線の開通といえるでしょう。この交通革命は北前船の衰退をもたらし、鉄道による物資の輸送を支え、何より鉄道の旅が庶民に拡がることにより、名所旧跡をめぐる文化が定着してきます。

加賀温泉郷を結ぶ温泉電軌、白山麓、白山比咩（しらやまひめ）神社への金名線、金沢から郊外へ行き交う松金線、浅野川・金石電鉄など、行楽地や遊園地をめざす電鉄網は人々の移動を盛んにしました。

このように、石川県には県域の各地に歴史的な背景に裏打ちされた観光スポットが散在し、これらの賑わいを時代時代の交通交流網が豊かに支えていたのです。 文／金沢星稜大学特任教授　本康宏史

石川県銭屋五兵衛記念館　MAP▶①B-3
●金沢市金石本町口55　☎076-267-7744
営9:00～17:00（入館は16:30まで）休12～4月:火曜（祝日の場合は翌日、年末年始）、5～11月:無休 ¥一般500円、小中高生350円※「銭五の館」への入館料含む。
北前船で財をなした豪商、銭屋五兵衛に関する資料を展示。北前船実物大1/4の模型で航海の擬似体験もできる

呉竹文庫　MAP▶①A-3
●白山市湊町ヨ146　☎076-278-6252
営9:00～17:00 休月曜（祝日の場合は翌日）、年末年始 ¥一般310円、中学生以下無料
旧北前船主、熊田源太郎が大正時代に設立した私設図書館をもとに、熊田氏自らの蔵書であった13,000冊余りの図書のほか、美術品、古文書などを企画展として定期的に展示している施設

安宅住吉神社　MAP▶①A-4
●小松市安宅町タ17 ☎0761-22-8896
営8:30～17:00（開門時間）
陸と海路の要所として古くより栄えた安宅の地にあり、北陸道往来の人々が必ず詣でた古社。道先案内の神、開運厄除など多くの信仰を受け、全国唯一の難関突破の守護神として、祈願やお守りを受けに全国から参拝者が訪れる

北前船の里資料館　MAP▶⑤加賀周辺
●加賀市橋立町イ乙1-1 ☎0761-75-1250
営9:00～17:00 休年中無休 ¥一般350円、75歳以上170円、高校生以下・障がいのある方無料
重要伝統的建造物群保存地区に選定されている加賀市橋立地区の北前船主の邸を利用した、「北前船」に関する資料を展示する資料館

※「令和6年能登半島地震」の影響により、2025年2月現在、臨時休館中につき、最新の情報はWEBサイトをご確認ください。

●金沢から加賀へ、海と陸の交流をめぐる

1日目	金沢駅（午後発）＝（バス18分）＝金石バスターミナル＝（8分）＝大野・金石町並み散策＝（10分）＝石川県銭屋五兵衛記念館＝（5分）＝金石バスターミナル＝（バス18分）＝金沢駅＝（車32分）＝呉竹文庫＝（車25分）＝あわづ温泉《泊》
2日目	あわづ温泉（発）＝（車20分）＝安宅住吉神社＝（車20分）＝北前船の里資料館＝（徒歩2分）＝加賀橋立地区町並み散策＝（車12分）＝加賀温泉駅もしくは小松空港

詳しくはほっと石川旅ねっとへ

※車の所要時間はおおよそのものです。🚲はレンタサイクル「まちのり」利用。

石川の日本遺産をめぐる

もっと8

古代より受け継がれる小松の石文化

太古から続く小松の石を見て知る場所へ

西山橋
石造のアーチ橋で重厚な雰囲気を醸し出している　●小松市滝ヶ原町　MAP▶⑤加賀周辺

2016年、文化庁が認定する「日本遺産」に選ばれた、小松の石文化。正式な名称は「『珠玉と歩む物語』小松～時の流れの中で磨き上げた石の文化～」といい、約2300年前から連綿と続く歴史が今も息づいています。

アーチ石橋などが残る滝ヶ原

小松は古くから続く石の名産地で、その歴史は弥生時代に碧玉※1の管玉※2の生産が盛んであったことが、発掘調査で判明しています。その後も良質の石の産地として地場を中心に活用されたほか、今もしっかりと根付く伝統工芸・九谷焼や、生活の一部となっている橋や塀垣、蔵の土台や壁などに石が活用されるなど、重要な役割を果たしてきました。

そんな石文化の歴史を垣間見ることができるのが、小松市の里山にある「滝ヶ原」エリアです。その地名がついた「滝ヶ原石」の産地で、すでに閉鎖された石切り場や、地元の石材を使ってできたアーチ型石橋群など、石にかかわるさまざまな見どころがあります。

名所は滝ヶ原地区に点在しているため、観光ガイドなどを行う「里山自然学校こまつ滝ヶ原」を拠点に回るのがおすすめ。里山自然学校すぐそばにある「西山橋」（左ページ写真）が最初の見どころです。アーチ型で、現在も生活道路として使われる“現役”の石橋。半世紀以上前に築造され、重厚な造りで周囲を植物が囲むさまは、まるで外国映画のワンシーンのようです。

さらにおすすめなのが、西山石切り場跡（右上写真）です。江戸時代から採掘されたものの、昭和中期に崩落したためすでに閉鎖された場所で、中には入れませんが山の斜面にぽっかり穴が空き、まるで山の中に神殿があるような姿が望めます。そのほかにも大小さまざまな石橋などがあり、滝ヶ原に根付く石の文化を見ることができます。

※1碧玉…鉱物の一種で、緑色の石
※2管玉…管状の装身具の部品で、腕飾りや首飾りに使われます

西山石切り場跡
すぐ近くの細道のほか、自動車が行き交える道路からもその姿を望める
●小松市滝ヶ原町　MAP▶⑤加賀周辺

那谷寺　MAP▶⑤加賀周辺
●小松市那谷町ユ122　☎0761-65-2111
時9:15～16:00　休無休　¥中学生以上1,000円、小学生300円、幼児以下無料

那谷寺や九谷焼も石があってこそ

小松の石は古代から時代を経ても重宝され、1300年の歴史を持つという名刹・那谷寺（左下写真）は、石山の地に創建されました。そそり立つ岩が目をひく「奇岩遊仙境」が代表するように、「石」が寺の成り立ちに大きな役割を果たしました。そして江戸時代には城郭の石垣などに活用されたほか、大正期から採掘が始まった「観音下石」は、独特な風合いなどが高く評価され、国会議事堂や旧甲子園ホテルに使われるなど、その名声は県外にも轟きました。

さらに石川を代表する伝統工芸・九谷焼も、小松の石があってのもの。江戸後期、小松で採掘された花坂陶石が九谷焼の原料として活用できることが分かり、生産の安定化が図られました。九谷焼が現在の名声を確立するには、小松の石が欠かせなかったと言えます。

小松では日本遺産認定を受け、石文化について学べるさまざまなスポットの整備を進めています。

小松の石の見どころは次ページへ!

石文化を体感できるスポットへ

小松には、石にまつわる多彩なスポットがあり、これらをめぐればその文化の奥深さが体感できます。

滝ヶ原（たきがはら）

今も採掘が続く石切り場

明治後期から建造されたアーチ型の石橋が5つ現存しており、「滝ヶ原石」の産地でもあります。里山自然学校のツアーでは、通常は見学できない本山石切り場の内部に入ることも可。また、校内には貴重な石工道具を展示・保存しています。

里山自然学校こまつ滝ヶ原
MAP▶⑤加賀周辺
●小松市滝ヶ原町ウ20
営9:00～23:00（要予約）
¥ツアー体験は500円
連絡先：滝ヶ原観光ネットワーク（要予約090-5680-1548）

小松市立錦窯（にしきがま）展示館

人間国宝の作品を展示

初代から三代の徳田八十吉が九谷焼上絵付にいそしんだ陶房跡で、1933（昭和8）年に建てられた町家を改修した展示館。歴代八十吉の作品のほか、2基の錦窯と上絵付の道具も見ることができます。

MAP▶①A-4
●小松市大文字町95-1
☎0761-23-2668
営9:00～17:00（入館～16:30）
休水曜（祝日を除く）、祝日の翌日、展示替え期間、年末年始
¥一般300円、高校生以下無料

尾小屋（おごや）鉱山資料館

かつての坑道跡で往時を体感

尾小屋鉱山に関する資料、銅の精錬工程などを展示。坑道跡は「マインロード」として整備され、散策することができます。トロッコレールも一部復元、年5回程度の「イベントデー」にはトロッコ乗車体験ができます。

MAP▶①B-4
●小松市尾小屋町カ1-1
☎0761-67-1122
営9:00～17:00（入館～16:30）
休水曜（祝日を除く）、祝日の翌日、冬期（12月1日～3月24日）
¥一般500円、高校生以下無料

Komatsu（コマツ） 九（ナイン） ギャラリー

石文化の源流を知る

小松駅構内にあり、こまつものづくりと交流の源流「八日市地方遺跡」の出土品から日本遺産「こまつの石文化」を紹介。大型モニターで小松市の様々な情報を発信しています。

MAP▶①A-4
●小松市土居原町13-18
☎0761-58-2775
営7:00～22:00
休無休
¥無料

小松市埋蔵文化財センター

石文化の成り立ちを知る

小松の遺跡から出土した重要文化財指定品など貴重な資料の数々を紹介する企画展示のほか、出土品整理体験や古代のものづくり体験もあります。

MAP▶①B-4
●小松市原町ト77-8
☎0761-47-5713
営9:00～17:00（入館～16:30）
体験内容についてはお問い合わせください。
休水曜（祝日を除く）、祝日の翌日、年末年始
¥無料

九谷セラミック・ラボラトリー

陶土づくり見学から、作品鑑賞、体験まで

施設内には製土工場が設けられ、全国でも希少な陶石からの土作りが見学できます。またろくろを使った器づくりや絵付け体験もできます。　※体験情報詳細は直接お問い合わせください。

MAP▶①A-4
●小松市若杉町ア91
☎0761-48-4235
営10:00～17:00（最終入館16:30）
休12～3月／火・水曜、年末年始
4～11月／水曜
¥一般300円、高校生以下150円

●小松の石文化を見て知る旅へ

1日目	小松空港（午前発）＝車30分＝滝ヶ原エリア＝車10分＝那谷寺＝車10分＝あわづ温泉《泊》
2日目	あわづ温泉（発）＝車20分＝小松市埋蔵文化財センターもしくは尾小屋鉱山資料館＝車15分＝九谷セラミック・ラボラトリー＝車10分＝Komatsu 九 ギャラリー＝車5分＝小松市立錦窯展示館＝車10分＝小松空港

詳しくは
ほっと石川旅ねっとへ

※車の所要時間はおおよそのものです。

石川の日本遺産をめぐる

もっと9 灯り舞う半島 能登
～熱狂のキリコ祭り～

祭りの聖地を訪ねて

あばれ祭　能登町宇出津地区／毎年7月第1金・土曜
能登のキリコ祭りの先陣をきって行われる勇壮な祭り

石崎奉燈祭　七尾市石崎町／毎年8月第1土曜
重さ約2tのキリコを約100人の男衆で担ぎ上げる漁師町らしい勇壮な祭り

日本人は、自然に感謝し、生きることを喜び、地域の絆を強くするために、生活に密着した祭りを継承してきました。全国各地に存在する祭りの中で、日本の原風景を有する能登半島の各地域が熱気と興奮に包まれる能登の「キリコ祭り」は、唯一無二の魅力を放ちます。

※本文は、2023年12月以前に「日本遺産・能登のキリコ祭り」についてまとめたもので、令和6年能登半島地震以降の「能登のキリコ祭り」開催状況等について詳細は記載しておりません。なお掲載している各祭りの開催については2025年2月時点で未定です。

里山里海に伝わる祭りの文化

夜、キリコに灯がともり、浮かび上がった大書の墨字や武者絵が幻想的な光景を醸し出す―。笛や太鼓のはやしに合わせて、夜空に威勢のいい掛け声がこだまする―。

キリコ祭りは、7月から10月にかけて能登半島の約200地区で行われる祭礼です。

「キリコ」は「切子灯籠」の略称で、神様の乗る神輿のお供をして道中を照らします。こうしたことから、「ホートー」（奉燈）、「オアカシ」（御明かし）と呼ぶ地域もあります。キリコの形状は、担ぎ棒のついた直方体が基本で、四面に張られた白い和紙に文字や紋、絵が描かれ、明かりが灯されるとそれらが幻想的に浮かび上がります。

キリコ祭りは祇園信仰や、夏越しの神事に由来し、それぞれ能登の地で独自の発展を遂げ

輪島大祭
輪島市海士町・河井町・鳳至町・輪島崎町／毎年8月22～25日
神様に涼をおとりいただく「おすずみ祭り」で、総漆塗りの豪華なキリコが巡行

西海祭り
志賀町西海地区／毎年8月14日
華やかに、勇ましく、女性が活躍する祭り

寺家キリコ祭り
珠洲市三崎町寺家地区／毎年9月第2土曜
高さ14～16mを超える総漆塗りで金箔を施した4基の大キリコはまさに圧巻

沖波大漁祭り
穴水町沖波／毎年8月14・15日
海の中で乱舞するキリコ祭りの代表格。日中に最高潮を迎える点が特徴

能登島向田の火祭
七尾市能登島向田町／毎年7月最終土曜
高さ約30mの松明の大きさから「日本三大火祭り」のひとつといわれる

宝立七夕キリコまつり
珠洲市宝立町鵜飼／毎年8月第1土曜
海に入ったキリコが松明のまわりを周回する海中乱舞が見どころ

ました。江戸時代の文書にはすでにキリコの記録が残っており、当初は笹竹の先に小さな行灯を吊るした簡素なものだったようですが、文化・文政期には現在のようなキリコが出現し、19世紀後半には地域の豪商たちが豪華さや大きさを競うようになりました。

優美に、豪華に、勇壮に―個性を競い合うキリコ

キリコ祭りと総称されながらも、祭りの趣向やキリコの姿かたちは多種多様です。数多くのキリコが大松明の周りを暴れまわる能登町の「あばれ祭」、沖の松明を目指してキリコが海上を乱舞する珠洲市の「宝立七夕キリコまつり」、4日間にわたって繰り広げられる水と炎の神事「輪島大祭」、高さ15mのキリコ6基が町内を豪快に巡行する七尾市の「石崎奉燈祭」など、各地で個性豊かなキリコ祭りが行われています。どれが一番ということはありません。それぞれが他の地区にはない個性を競い、どこも一番を自負しているのです。

ひとつの地域でこれだけ多くの同一の形態をもった祭りが存在するのは、国内を見渡しても能登半島が唯一。その灯は半島全体を照らし出し、日本の原風景ともいえる能登の暮らしに光と影、静と動、緩と急、ハレとケのコントラストを生み出します。

名舟大祭
輪島市名舟町／毎年7月31日・8月1日
奇妙な面を付けて太鼓を打ち鳴らす御陣乗太鼓が知られる

恋路火祭り
能登町恋路地区／毎年7月「海の日」の前日
恋伝説の舞台にふさわしい幻想的な松明と勇壮なキリコが登場

キリコ祭りを体感することは日本人の精神性を知ること

能登には「ヨバレ」という、祭りに育まれたもてなしの風習があります。キリコ祭りの当日、地域の家々は玄関の戸を開け放ち、能登を離れた家族を迎え、親類や友人を招いてごちそうをふるまいます。「能登はやさしや土までも」という、この土地の人々の温かさやおおらかさを表す言葉がありますが、こうした人々の心の持ちようは、祭礼に対する熱心さにも表れています。

キリコ祭りは能登に暮らす人々の心のよりどころであり、生活の節目であり、エネルギーを爆発させる場でもあります。祭りの熱気の中に身を置き、地域の人々とふれあうことは、日本人が大切にしてきたものを理解することにつながります。

《ユネスコ無形文化遺産》

青柏祭（せいはくさい）の曳山行事

七尾市の大地主神社の春祭りである「青柏祭」は、能登で最も盛大な祭りのひとつで、ユネスコ無形文化遺産に登録されています。祭りの主役はキリコではなく、その名も「でか山」という日本一の大きさの曳山です。高さ約12m、車輪の直径約2m、重さ約20tのでか山3基が、中心市街地の軒をかすめるように進み、「辻廻し」の見せ場で地響きを立てて90°方向転換すると、見物客から大きな歓声が上がります。

2024年、曳山は中止となったが神事は実施された

祭りを未来に継承するために

日本遺産に認定されている能登の伝統行事「キリコ祭り」。夏から秋にかけて、能登半島の約200地区で行われてきましたが、令和6年能登半島地震後は、半数以上、もしくはほとんどが中止となった中、2024年7月、能登町宇出津地区でキリコが町を練り歩き乱舞する『あばれ祭』の開催が実現しました。他にも七尾市石崎町の『石崎奉燈祭』、七尾市能登島の『能登島向田の火祭』が実施されるなど、祭り開催のために人が集まることが、地域の人たちをつなぐ役目も果たしています。2025年もまた、ひとつでも多く、能登キリコ祭りの復活を願います。

「能登のキリコ祭り」の情報はこちらから!

大自然の魅力を体感

もっと10 世界農業遺産の島にステイする

ゆったりと流れる時間、人々のやさしさ。能登島ならではの“島あそび”を満喫！

能登島では島の人も観光で訪れる人も、みなで環境に配慮しルールを守りながら野生イルカの生息地を見守っている

日本で最初に世界農業遺産に認定された能登半島。その中央に浮かぶ能登島は、里山里海の自然と、観光交流の島としての魅力にあふれています。

※能登島では、令和6年能登半島地震による被害により、復旧・復興への取り組みが進められています。観光で訪問される際は、事前に施設のホームページ等でご確認ください。

元気な能登島へむけて一歩ずつ前へ

七尾湾に囲まれ、海と山が育む豊かな食材に恵まれた能登島。海が穏やかなこともあり、近海では定置網漁が、また湾内ではカキの養殖が行われています。海岸近くまで田畑が広がり、里山里海ならではの風景も島の魅力のひとつです。

令和6年能登半島地震から1年が過ぎ、2025年2月現在の能登島では、のとじま水族館、石川県能登島ガラス美術館などの観光施設の一部再開をはじめ、「食べる」「泊まる」を中心に、能登島での観光が戻りつつあります。

体験観光で人気の一つ、能登島ガラス工房での「吹きガラス体験」のほか、石川県能登島ガラス美術館では「ガラス彫刻」「ガラスエッチング」のワークショップが始まりました（美術館本館は2025年2月現在休館中）。

また、のとじま水族館も2024年7月から一部営業を再開。同年10月には、ジンベエザメ（愛称「モモ」）が新しく仲間入りしたほか、ペンギンのお散歩タイム、アザラシのお食事タイムの実施、さらに普段は見られない水族館の裏側探検隊も再開しています。2025年春にはイルカショーも復活し、完全再開する予定です。

能登島ガラス工房での吹きガラス体験の様子
能登島ガラス工房
七尾市能登島向田町122-53　☎0767-84-1180

新しく仲間入りしたジンベエザメの「モモ」
のとじま水族館
七尾市能登島曲町15-40　☎0767-84-1271

のとじま臨海公園「海づりセンター」（のとじま水族館内）。貸竿・餌の販売もしているので手ぶらで来ても大丈夫

海釣りを楽しんで、海の幸を堪能する

島の人々の生活にも日常が戻りつつあります。これまでのように、農業、漁業体験を本格的に楽しむには、まだ時間はかかりますが、漁港での水揚げ作業の見学やイルカウオッチング、海釣り体験などができるようになりました。また、2024年の夏には、能登を代表するキリコ祭りのひとつとして知られる、「能登島向田の火祭」が無事に開催されました。

営業を再開する民宿や旅館、ゲストハウス、キャンプ場が増えはじめ、能登島の食材を使った料理が食べられる食堂やレストランなど、通常営業をしている飲食店も増えており、観光の受け入れ準備が徐々に進んでいます。

船から観察するイルカウオッチング

能登ガキの販売と炉端焼きは大人気

能登島観光協会（道の駅のとじま内）　MAP▶①C-2
七尾市能登島向田町122-14　☎0767-84-1113
営9:00～17:00 休土・日曜、祝日、12～3月の毎週木曜

能登島の最新情報はこちらから

「能登島観光の魅力は、自然豊かな風景、人のもてなし、そしてうまい魚です」とは、能登島観光協会会長の言葉。夏の磯あそび、夏から秋のキリコ祭り、冬に美味しい魚介類などなど。四季折々、これからも能登島の魅力は尽きません。

さらにもっと！

石川県森林公園で心を癒やす森林セラピー

「森林セラピー」とは、科学的な証拠に裏づけられた森林浴のことで、森林環境を楽しみながら心身の健康維持・増進、疾病の予防をめざすものです。石川県森林公園は2013（平成25）年3月に森林セラピー基地に石川県で初めて認定されました。園内には、景観に優れた5本のセラピーロードが設置されており、森林散歩と健康維持・増進を目指すプログラムが体験できます。

また滞在には、道の駅 倶利伽羅源平の郷にある宿泊施設「倶利伽羅塾」の利用がおすすめです。

●森林セラピーのお問い合わせ
石川県森林公園インフォメーションセンター　MAP▶①B-3
☎076-288-6449 https://www.town.tsubata.lg.jp/site/therapy/
河北郡津幡町字津幡エ-14

●**倶利伽羅塾**　MAP▶①B-3
河北郡津幡町字竹橋西270　☎076-288-8668

白山で霊山の情趣にふれ、自然を体感する

ゆったりと横たわる白山主峰の御前峰をバックに随所でクロユリの群生が見られる（室堂平）

白山は千三百年にも及ぶ信仰の歴史を有し、花の名山としても著名な山。
クロユリやハクサンコザクラが咲き競う夏、白山比咩神（しらやまひめのかみ）のご神徳を戴き、霊峰の自然を体感しよう!

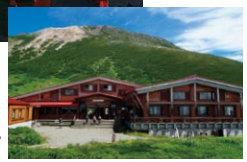
千三百年にも及ぶ信仰の歴史を有する山

白山が富士山、立山とともに「日本三霊山」と称されるようになったのは、日本に数多（あまた）ある信仰の山のなかで、とくに霊験（れいげん）あらたかな山（今風にいえばパワースポット）として広く知られていたからでしょう。江戸時代には、これら霊山の「三山巡り」も流行したとか。白山はまた、花の名山として知られ、ハクサンを冠する高山植物が約20種もあります。江戸時代の紀州藩士で本草（ほんぞう）学者の畔田伴存（くろだともあり）（1792-1859）が珍しい植物で知られた白山に登り、『白山草木志』などを著したことなどがその要因ですが、群生するクロユリやハクサンコザクラの見事さは、わが国有数といえるでしょう。

このような白山の歴史と自然は、国際的にも高く評価され、自然と人との共生を図るユネスコエコパーク（生物圏保存地域）に登録されています。また、2023年5月には、価値ある地質遺産保護と活用を目的としたユネスコの世界ジオパークに「白山手取川ジオパーク」が認定されました。そのエリアは白山市全域、テーマは「山-川-海 そして雪　いのちを育む水の旅」です。

大汝峰（2,684m）から望む白山山頂部。右:御前峰（2,702m）、左:剣ヶ峰（2,677m）と7つの火口湖のうち最大の翠ヶ池

雲海の彼方、北アルプスからのご来光。晴れた朝には太鼓を合図に御前峰に登る



白山室堂ビジターセンターと御前峰。室堂は定員700名を超す大きな山小屋だ。公衆トイレの水洗化で快適さも増した

ハクサンイチゲ

ハクサンコザクラ

そんなジオパークの中でも重要な白山の最たるジオサイト※は、やはり山頂一帯の火山地形でしょう。砂防新道を登って室堂に1泊し、お池巡りをするのがおすすめです。

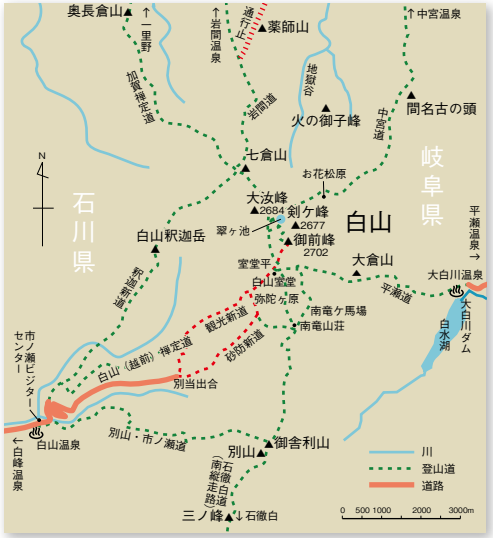
写真と文／白山自然保護センター元所長　栂典雅

※ジオサイト…ジオパークの大地の成り立ちがわかる見どころ

金沢駅・松任駅発着登山バス利用で便利に!

7月から10月の白山登山シーズンには、JR金沢駅とIRいしかわ鉄道松任駅を発着点とする登山バス（市ノ瀬ビジターセンター行き）が運行の予定です。

○お問い合わせ
■金沢駅発着／北陸鉄道テレホンサービスセンター　☎076-234-0123
■松任駅発着／株式会社マップ　☎076-249-7300



最短の砂防新道は別当出合から室堂まで6km、約4時間。随所に水場とトイレがある。下山は花と展望が魅力の観光新道が人気だが、やや健脚向き。なお、白山では登山届の提出が義務付けられており、市ノ瀬や別当出合、WEBでも提出できる

●予約・問い合わせ／白山観光協会　☎076-273-1001

白山広域は　MAP▶①B-4

白山手取川ユネスコ世界ジオパーク

白山手取川ジオパークのエリアや見どころ&モデルコースなど情報盛りだくさん!

詳細はこちらから

●お問い合わせ
白山手取川ジオパーク推進協議会
☎076-274-9564

白山での自然観察会

7月下旬から約1カ月、石川県自然解説員研究会による自然観察会が室堂と南竜ヶ馬場で毎日、土・日曜は、別当出合～室堂もしくは南竜ヶ馬場間の登山・下山ガイドを行っています（参加無料・申し込み不要）。詳しくは、下記へ。

詳細はこちらから

●お問い合わせ
石川県自然解説員研究会
☎090-7083-5687

美しい瞬間を求めて、石川へ通いつめる

兼六園・冬のライトアップ ●金沢市兼六町 MAP▶②金沢市街 B-1
11～3月頃まで"雪吊り"が見られる

日本海から高山帯まであり、四季の変化がはっきりしている石川県は、風景写真を楽しむ人々に人気のエリアです。ここではとっておきの絶景写真でその魅力をお伝えします。

新旧が織りなす金沢の絶景

日本三名園の一つである兼六園は季節ごとに期間限定でライトアップされます。

冬のライトアップは例年雪が多い2月頃に開催され、タイミングが合うと雪景色の中に雪吊りが幻想的に浮かび上がるでしょう。

桜の時期には春のライトアップ、緑深まる初夏、紅葉の秋と、それぞれが優れた被写体となります。ライトアップの開園からしばらくの間は混雑しますが、多少時間を遅らせると一般の観光客は少なくなるので、落ち着いて撮影できるでしょう。

夜桜と石川門 ●金沢市丸の内 MAP▶②金沢市街 B-1
春ならではのワンシーン

石川県庁からの夜景 ●金沢市鞍月 MAP▶①B-3
最上階に展望台があり、19時または20時まで無料開放

卯辰山公園四百年の森 ●金沢市鳴和町 MAP▶①B-3
春は満開の桜の花の森が広がる

姥ヶ滝 ●白山市中宮 MAP▶①B-4
日本の滝百選に選出されている白山白川郷ホワイトロードを代表する滝。雨の直後、増水した滝と最高の紅葉の瞬間をとらえた

地形の変化に富む加賀の絶景

白山白川郷ホワイトロードは標高差800m以上を誇り、10月中旬から冬季閉鎖になる11月初旬まで、どこかで紅葉が楽しめます。紅葉の初期は、タイミングが合えば冠雪した白山と紅葉の絶景が撮影できます。紅葉は次第に下降して蛇谷（じゃだに）峡谷の滝群で見頃になるのは10月下旬頃です。

白山の展望を撮るならば晴天が条件になりますが、滝を撮るなら光が柔らかい曇りの方が撮りやすいでしょう。

※「絶景に出会う」をテーマに、写真家の木村芳文氏が2023年12月以前に執筆、撮影された画像にて紙面を再構成しています。

そして本当は雨天が秀作をものにするチャンスです。岩盤が発達した蛇谷峡谷は一気に増水しますが、雨が止めば水が引くのも早いのです。

写真と文／木村芳文

不老橋からの手取峡谷　●白山市吉野　MAP▶①B-4
大きな甌穴（おうけつ）を見ることができる

桜と月の軌跡　●小松市木場潟　MAP▶⑤加賀周辺
木場潟を周遊する園路沿いに約1,700本の桜並木がある

那谷寺　●小松市那谷町　MAP▶⑤加賀周辺
白山ゆかりの那谷寺は石川を代表する紅葉スポット

見附島から立ち上る天の川と月　●珠洲市宝立町鵜飼　MAP▶①C-1
特異な姿が印象的な見附島は、昼間だけでなくデジタルカメラの高感度特性を生かして星空とともにとらえたいところ
★令和6年能登半島地震によって島の南東側のほぼ半分が崩落したが、変わらず能登のシンボル的存在。2025年春には、VR技術で往時の姿を復元・3D化し、能登半島地震デジタルアーカイブで公開される予定

機具岩（はたごいわ）　●羽咋郡志賀町七海　MAP▶①B-2
一年中、夕日と一緒に狙える
★機具岩は幸いにして被災を免れ、震災前と変わらぬ姿を見せている

冬の日本海と波の花　●輪島市町野町　MAP▶①C-1
白米千枚田に近い曽々木海岸で撮影
★2024年10月下旬に白米千枚田前の岩場に「波の花」が出現したのが確認された

能登の絶景を忘れない

これからも美しい風景と出会い、記憶にとどめるために

写真・解説文は、写真家の木村芳文氏が2023年12月以前に撮影、執筆されたものに、2025年2月時点の状況（★）を追記しています。

白米千枚田　あぜのきらめき　●輪島市白米町　MAP▶①C-1
★地震と豪雨により約8割の田が被害に遭った。棚田を管理する地元団体によって被害状況の確認や修繕の準備がすすめられている

今行ける能登へ GO!

『ほっと石川旅ねっと』今行ける能登はこちらから➡

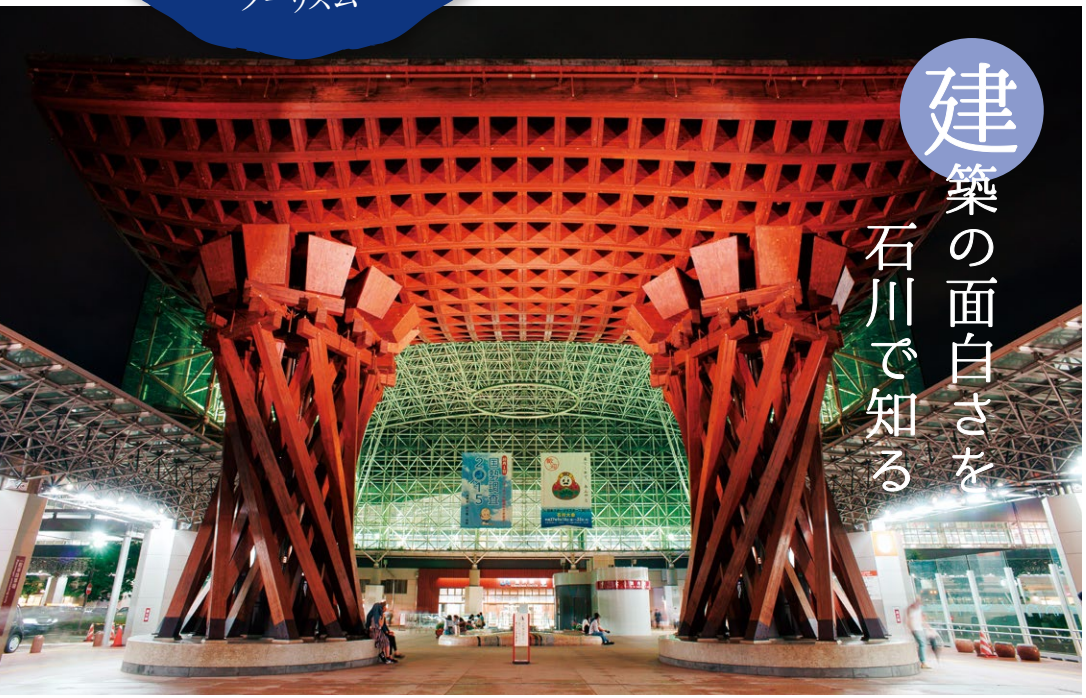
能登の施設やイベント情報ほか“今行ける能登”を発信中!

石川県観光連盟では、公式サイト『ほっと石川旅ねっと』で、能登の最新情報を随時更新するとともに、能登の観光地や飲食・物販店、宿泊施設などの営業状況が一目で分かる「デジタルマップ」を公開しています。デジタルマップには宿泊施設や飲食店をはじめ、おすすめの観光ルートなどを掲載。使用端末の位置情報を用いて目的地までの道のりや所要時間も分かる、便利なマップです!能登観光の必須ツールとして、ぜひお役立てください。

気になるスポットをタップすると詳細情報が表示されます

今行ける能登の「デジタルマップ」はこちらから➡

建築の面白さを石川で知る



金沢駅（鼓門・もてなしドーム）　●金沢市木ノ新保町　MAP▶②金沢市街 A-2

時代を超えて、偉大な建築家たちが競いあう建築美。石川の美しい風景と建物を訪ねる旅をお楽しみください。

江戸時代の天才建築家 山上善右衛門の作品に迫る建築の旅

歴史建築と現代建築をシームレスに堪能できる石川のアーキテクチャ・ツーリズム。共通するのは、偉大な建築家たちが石川の風景的な美しさを取り込み、建築作品として表現していることであり、そこに石川の名建築を愉しむヒントがあります。

石川の歴史建築を代表する建築家が山上善右衛門です。たとえば妙成寺（みょうじょうじ）は、台地が持つ斜面を生かして一直線に総門・楼門・五重塔が配されています。訪れた者は石段を辿りながら五重塔まで、天に向かって歩いていく、そんな感覚にさせられる建物です。そして、景観美を徹底的に生かし尽くした那谷寺、海から入らずの森へと至る繋がりを意識させる氣多大社。山上善右衛門建築は、建築好きの好奇心をどこまでもかき立てます。

妙成寺
●羽咋市滝谷町　MAP▶①B-2

石川県立図書館　●金沢市小立野　MAP▶①B-3
本のページをめくる様を表現したような外観の建物で、中心部には円形劇場を思わせる段状の大閲覧空間が広がる。コンセプトは「思いもよらない本との出会いや体験によって、自分の人生の1ページをめくることができる場所」

現代建築の巨匠たちが競演する アーキテクチャ・ツーリズム

一方の現代建築では、谷口吉郎がいしかわ生活工芸ミュージアムをはじめとする気品漂うシンプルモダンな建築作品を数多く遺し、金沢城と兼六園が創りだす城下町との調和を求めました。金沢21世紀美術館、金沢駅（鼓門・もてなしドーム）、金沢海みらい図書館、そして鈴木大拙館がその感性を引き継ぐように、景観と見事に溶け込みながらも強い印象を与えるのが今の金沢です。そして、2019年には「谷口吉郎・吉生記念金沢建築館」が開館。2022年には石川県立図書館が移転開館。さらにかほく市の石川県西田幾多郎記念哲学館も忘れてはいけません。

加賀と能登では、さらに風景の魅力と一体化した建築が愉しめます。片山津にある中谷宇吉郎 雪の科学館と加賀片山津温泉総湯は柴山潟と白山を借景として上手く取り込んでいます。能登では石川県七尾美術館がその土地をコンセプチャルに体現し、石川県能登島ガラス美術館は海に囲まれた小高い丘に独自の存在感を示しながら建っています。

鈴木大拙館
提供：鈴木大拙館
●金沢市本多町　MAP▶②金沢市街 C-1

谷口吉郎・吉生記念金沢建築館
写真：北嶋俊治
●金沢市寺町　MAP▶②金沢市街 C-2

金沢21世紀美術館
●金沢市広坂　MAP▶②金沢市街 B-2

石川県西田幾多郎記念哲学館
●かほく市内日角　MAP▶①B-3

中谷宇吉郎 雪の科学館 ※1
●加賀市潮津町
MAP▶⑤加賀周辺

加賀片山津温泉 総湯
●加賀市片山津温泉
MAP▶⑤加賀周辺

石川県能登島ガラス美術館 ※2
●七尾市能登島向田町
MAP▶①C-2

那谷寺
●小松市那谷町
MAP▶⑤加賀周辺

※1 令和6年能登半島地震による施設被害復旧工事のため、2025年4月1日～2026年3月31日の期間は休業　※2 2025年2月現在、本館は休館中

●山上善右衛門の作品を味わい、シンプルモダンな現代建築を対比させる旅

1日目　金沢駅/鼓門・もてなしドーム（午前発）＝（車50分）＝氣多大社MAP▶①B-2＝（車10分）＝妙成寺＝（車90分）＝金沢・湯涌温泉《泊》

2日目　湯涌温泉（発）＝（車20分）＝金沢21世紀美術館、鈴木大拙館、谷口吉郎・吉生記念金沢建築館＝（車12分）＝石川県立図書館＝（車60分）＝那谷寺＝（車20分）＝片山津温泉（総湯）＝（車45分）＝金沢駅（夕方着）

詳しくは ほっと石川旅ねっとへ

※車の所要時間はおおよそのものです。

重要伝統的建造物群保存地区の数が石川県は日本一

市町村が決めた「伝統的建造物群保存地区」の中で、国が価値が高いと判断したものが「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されます。2025年2月現在、日本全国の都道府県別では石川県の8地区がトップです。

※「令和6年能登半島地震」の影響により2025年2月現在、一部復旧・整備中

金沢市東山ひがし

MAP▶②金沢市街 B-1

1820(文政3)年に「ひがし」の茶屋町として浅野川の東に創設された。保存地区内の建築物約140棟のうち約3分の2が伝統的建造物で、茶屋町創設時から明治初期に建設されたものが多く、その約9割が茶屋の様式の町家。

金沢市主計町(かずえまち)

MAP▶②金沢市街 B-1

浅野川沿いの表の通りとそれに平行する裏の通り、それらと直交する数条の路地が骨格をなす。町家は、切妻造平入、2階建を基本とし、浅野川沿いでは、茶屋町の最盛期に行われた3階の増築が往時の繁栄を伝えている。

金沢市卯辰山麓(うたつさんろく)

MAP▶②金沢市街 A-1

卯辰山麓の寺町には、17世紀中期に至るまで段階的に寺院が配された。起伏ある山麓の地形にあって、江戸時代の切妻造平入や妻入の特徴ある寺院本堂が密度高く残り、歴史的風致をよく残す。

金沢市寺町台

MAP▶②金沢市街 C-2

藩政期に形成された3つの寺町のうち、ここは最大の寺院数を数えた。寺院周辺の町家とともにまとまりある町並みを形成している。旧鶴来道沿いには寺社門前地に形成された町家が連なる。

輪島市黒島地区

MAP▶①B-1

北前船による海運業の発展を背景に成長を遂げ、江戸中期に150戸程だった家数は、明治前期には500戸を超えた。黒瓦、下見板、格子窓で構成される家屋が連なる街並みが、船主集落としての特徴を伝えている。

加賀市加賀橋立

MAP▶⑤加賀周辺

江戸後期から明治中期にかけて建設された、北前船の船主や船頭等の家屋が残る。主屋は切妻造妻入で、外壁には日本海から吹きつける潮風を防ぐために、船板を再利用した堅板を張る。

加賀市加賀東谷

MAP▶①A-4

荒谷、今立、大土、杉水の4集落およびこれらを結ぶ河川、旧道から成る。主屋は前広間型の間取りを持つ2階建ての切妻造妻入で、4面に下屋を廻らし、大屋根には煙出しを設け、屋根と庇を赤褐色の桟瓦で葺く。

白山市白峰(しらみね)

MAP▶①B-4

冬期の積雪は2mを超える厳しい自然環境にあり、集落は手取川西岸の細長い河岸段丘上に形成される。雪下ろしの作業のために屋根にあがる大はしごが常設されているのも特徴的。

文学作品に描かれた地をめぐり、石川の神髄にふれる

井上靖『北の海』の舞台となった内灘海岸 ●河北郡内灘町 MAP▶①B-3

さまざまな文学作品の舞台ともなった石川の風土。ここでは文学作品の舞台となった地と、その背景についてご紹介します。

※本文は「名作の舞台をめぐる」をテーマに2023年12月以前に執筆されたもので、「令和6年能登半島地震」以降の状況とは異なることをご了承ください。

「天下の書府」を受け継ぐ

「加賀は天下の書府」とは、加賀藩5代藩主前田綱紀が収集した数十万点に及ぶ蔵書をさして新井白石が残した言葉です。綱紀は書籍の収集だけでなく、それら書物の保存・修復、学問の奨励に努めたと言われています。

このような学問奨励の風潮は明治になっても衰えることなく、北陸の人々の粘り強い気性と相まって、石川の地には多くの思想界・文学界の偉人が誕生しました。

評論家の三宅雪嶺、「加賀の三太郎」と呼ばれた国文学者の藤岡作太郎、思想家の鈴木大拙(貞太郎)、哲学者の西田幾多郎は明治の社会をリードし、後世に大きな影響を与えました。

学問に熱心な土壌は、創作の世界でも大輪の花を咲かせました。俗に「金沢の三文豪」と呼ばれる泉鏡花、徳田秋聲、室生犀星は、幾つもの作品が舞台化・映画化され、現在でも多くの人々

金沢城外堀公園の白鳥路に建つ三文豪像
●金沢市丸の内　MAP▶②金沢市街 B-1

浅野川にかかる梅ノ橋と、「滝の白糸」像
●金沢市並木町　MAP▶②金沢市街 B-1

に親しまれています。彼らが描いた故郷の風景、風情は人々の胸を打ち、物語の舞台である石川に足を運んでいただく大切な要因となっています。特に、幻想的な作風と絢爛な文章で読者を魅了した泉鏡花は、城下町金沢の街角に次々と異界への扉を開き、人々を迷宮に誘いました。

なかでも前田家藩主の私的な庭として造営された兼六園は、加賀藩御細工所に籍を置いた彼の父や祖父とのゆかりもあり、「滝の白糸」の外題でも知られる悲恋の物語「義血侠血」や銘木旭桜を恋い慕う桜の精を描いた「桜心中」など金沢を舞台とする主要な作品に幽玄かつ、妖美な姿で描かれました。鏡花が描いた月と星と闇の結界に守られた人外の世界の物語は、「宏大・幽邃・人力・蒼古・水泉・眺望」の六つを兼ね備えたとされ、命名された当時の姿を今に伝えてくれています。

豊饒な自然に育まれる物語

石川の美しい風景は、この土地で生まれ育った作家が描いた作品ばかりではなく、この地を第二の故郷とした人たちが描写した作品の中にもその姿をとどめています。

1927(昭和2)年に旧制第四高等学校に入学し、金沢での3年間を柔道に明け暮れた井上靖は、その生活を『しろばんば』、『夏草冬濤』に続く自伝的小説『北の海』に仕立てています。現在のいしかわ四高記念公園にある赤煉瓦の校舎が描かれて

旧制第四高等学校の建物は、「石川四高記念文化交流館」として公開されている　MAP▶②金沢市街 B-2
●金沢市広坂2-2-5 ☎076-262-5464
営多目的利用室 9:00～21:00、展示室 9:00～17:00、レトロミュージアムショップ・レトロ衣装体験ルーム 9:00～17:00
¥石川四高記念館 無料/石川近代文学館 一般370円、大学生290円、高校生以下無料 休12/29～1/3、展示替期間、レトロミュージアムショップ・レトロ衣装体験ルームは水・木曜

※「令和6年能登半島地震」の影響により2025年2月現在、本館休館中につき最新の情報はWEBサイトをご確認ください。

日本海に向かってそびえる「ヤセの断崖」。展望台や遊歩道が整備されている
●羽咋郡志賀町笹波　MAP▶①B-1
※ヤセの断崖および周辺の観光施設等については、2025年2月現在、復旧・整備中につきご注意ください

深田久弥の故郷・大聖寺(加賀市)から見る白山
撮影／栂典雅氏

いることはもちろんですが、波高い日本海を背景に内灘砂丘で少年たちが校歌放吟するくだりは、青春の姿そのものとして読者の胸を熱くします。井上が柔道部の仲間らと見渡した砂丘の大半は住宅地となってしまいましたが、大陸に向けて広がる海原や夜空に輝く北辰(北極星)、遠く金沢の町の灯を眺めながらガタゴトと走る小さな電車は今も当時のまま私たちを迎えてくれます。

日本海の雄々しく厳しい姿は、現代においても多くの作家の憧れと畏怖の心を喚起し、作品に描写されました。

松本清張の代表作『ゼロの焦点』は、運命に翻弄される女性たちの姿を描き、戦後日本の悲哀を能登の荒涼たる風景と共に描写しました。幾重にも重なり垂れ込める灰色の雲、横殴りの雪、逆巻く波濤は女たちの悲しみと共に、日本人の忘れられない歴史を今に問いかけています。

この作品は何度も映像化されており、殊にラストの「ヤセの断崖」のシーンは印象的で、後のサスペンスドラマにある、「刑事が犯人を追いつめるシーン」に断崖絶壁が定番になった所以とも言われています。

また、現在の百名山ブームをつくったのが加賀大聖寺出身の深田久弥が著した『日本百名山』です。彼の残した「日本人はたいていふるさとの山を持っている」という名言は、厳しく豊かな日本海、霊峰白山に抱かれつつ育まれた石川の豊饒な自然を言い表しているように思います。

絢爛な文化を雄大な自然で包みこむように育んだ石川の風土は、この地を訪れる方々にそのつど「新しい出会いと発見」をもたらすことと思います。ぜひ、文学に描かれた地を巡り、石川の神髄に触れる旅をお楽しみください。

文／石川近代文学館学芸員　宮本知穂

詳しくは
ほっと石川旅ねっとへ

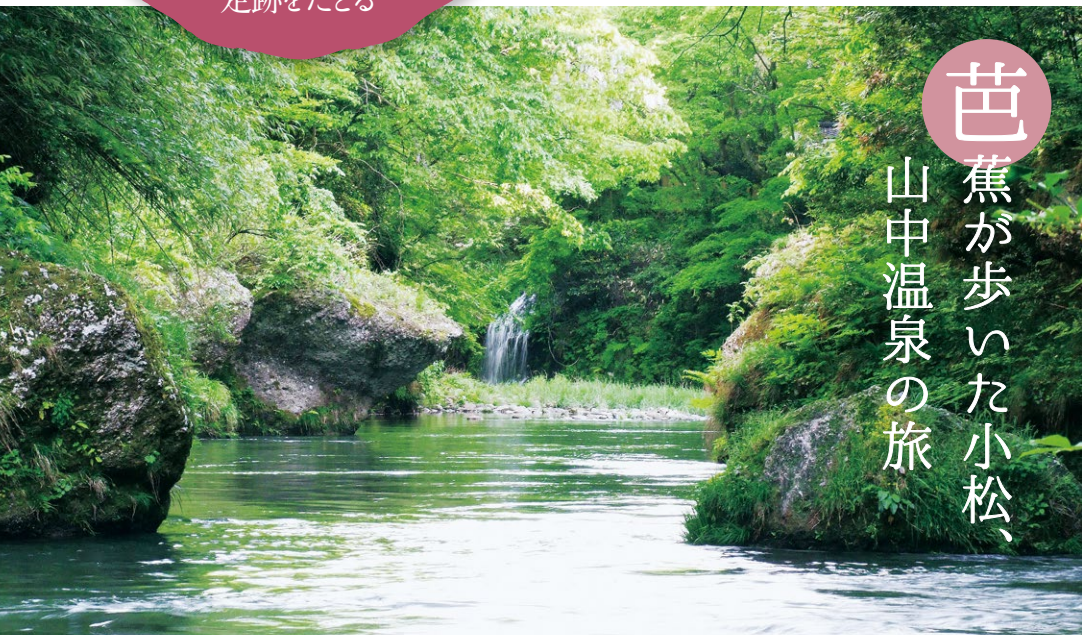
文学作品に描かれた地をめぐる旅

金沢駅(午前発)＝車25分＝内灘海岸＝車25分＝金沢駅…10分…浅野川界隈(梅ノ橋)…10分…兼六園…5分…いしかわ四高記念公園…20分…金沢駅(午後着)・湯涌温泉《泊》または北陸新幹線で加賀方面へ

※車の所要時間はおおよそのものです。🚲はレンタサイクル「まちのり」利用。

松尾芭蕉の足跡をたどる

芭蕉が歩いた小松、山中温泉の旅



大聖寺川黒谷橋付近からの鶴仙渓。この景観を松尾芭蕉も愛でたであろう。紅葉の時期は芭蕉ならずとも手をたたきたくなるほどの見事な美しさ

五・七・五のメッセージを追って小松へ、山中温泉へ―。この地で芭蕉が感動した風景や土地の温もりなど、芭蕉の旅路を追体験します。

土地の俳人と交歓した小松

月日は百代の過客にして（月日は永遠の旅を続ける旅人のようなもので）―。との冒頭文で始まる『おくのほそ道』。作者は言わずと知れた松尾芭蕉です。旅を愛した俳聖は1689（元禄2）年の3月、弟子の曾良を伴い江戸深川から奥羽、北陸への旅に出発。総行程2,400km、5カ月におよぶ旅となります。

金沢を経て芭蕉一行が小松に到着したのは7月24日のこと。新暦では9月7日で、秋風が萩やすすきを揺らす頃です。本折日吉神社の神主宅で行われた句会に招かれた芭蕉は、「しをらしき名や小松吹　萩すすき」と詠みました。「小松とはかわいい名前ですね」との挨拶吟。句碑が本折日吉神社を含め市内3カ所にあります。

小松は寺社が多いまちで、芭蕉はあちこち訪れています。多太神社では、源平の合戦で討ち死にした斎藤別当実盛（さねもり）の兜を拝観し、「むざんやな 甲の下の きりぎりす」の句を奉納しました。

建聖寺でも地元の俳人と交流しており、金沢から芭蕉と同行した俳人・立花北枝（たちばなほくし）が彫った芭蕉の木像が残されています。

小松駅から各スポットへの移動には、電動アシスト自転車のこまつシェアサイクルが便利です。お腹がすいたら、芭蕉も食したとされる名物「小松うどん」をどうぞ。

旅の疲れを癒やした山中温泉

小松に3日間滞在の後、山中の地で8泊9日の長逗留をした芭蕉は、「山中や　菊はたおらじ　湯の匂」と当地の湯をたたえました。中国の桃源郷では、菊の露を飲んで長生きしたというが、この湯に浴せば寿命も延びるようで、わざわざ菊を手折る必要もない―との意味です。

温泉街の中心には、芭蕉の句にちなんで菊の湯と名付けられた総湯（共同浴場）があります。当時からこの場所で何度か建て直され、現在は男女別棟の立派な建物となっています。

さて、山中温泉には8泊にわたり逗留した芭蕉ですが、ともに旅を続けてきた曾良は途中体調を崩し、芭蕉より先に山中温泉を発ち別のルートを進むことに。菊の湯から少し先にある「芭蕉の館」の前には、その時の別れを惜しむふたりの石像と句碑が建てられています。

黒谷橋のたもとに建つ芭蕉をまつる芭蕉堂

旅のハイライトは、山中温泉の中でも随一の景勝地といわれる鶴仙渓です。芭蕉は、大聖寺川にかかる黒谷橋の上からの眺めに「行脚の楽しみここにあり」と手を打って喜んだといいます。

また、芭蕉は温泉街を見下ろす高台にある医王寺を参拝しており、宝物館には「芭蕉の忘れ杖」が収められています。

《小松市内 芭蕉ゆかりの神社》

1 建聖寺

立花北枝が彫ったと伝えられる芭蕉木像（建聖寺蔵）

2 本折日吉神社

神主宅での句会に小松に滞在中の芭蕉が招かれている

3 多太神社

多太神社にある芭蕉の句碑

多太神社の斎藤別当実盛の兜（国指定重要文化財）

山中温泉 芭蕉の館
MAP▶⑤加賀周辺
芭蕉が書き残した掛軸（複製）や扁額など多くの俳諧資料を公開展示。芭蕉について学ぶことができる。
●加賀市山中温泉本町2-ニ86-1
☎0761-78-1720
営9:00～17:00 休水曜
¥一般300円、高校生以下無料

山中温泉 菊の湯
MAP▶⑤加賀周辺
●加賀市山中温泉湯の出町レ1
☎0761-78-4026
営6:45～22:00 休第2・4火曜
¥12歳以上490円、6歳以上130円、3歳以上50円、3歳未満無料

詳しくは ほっと石川旅ねっとへ

●芭蕉の足跡をたどる旅1泊2日

1日目
小松駅（発：こまつシェアサイクルを利用）＝自転車5分＝本折日吉神社＝自転車3分＝多太神社＝自転車8分＝建聖寺＝自転車5分＝小松駅＝車25分＝山中温泉《泊》

2日目
山中温泉（発）…徒歩5分…鶴仙渓（黒谷橋・芭蕉堂）…徒歩5分…菊の湯…徒歩3分…芭蕉の館…徒歩10分…医王寺＝車15分＝加賀温泉駅

※所要時間はおおよそのものです。

外国客船の入港ラッシュに沸く金沢港

地震からの復興進み、

コスタ・セレーナ
金沢港入港の様子

2024年早々、石川県を襲った「令和6年能登半島地震」の影響は金沢港にもおよびました。しかし、急速な復旧作業もありクルーズターミナルは再開。史上2位の乗客数と、前年とほぼ変わらぬ客船入港数を記録しました。また、米誌で「2025年に行くべき世界の旅行先25選」にも選ばれた金沢は、港にもさらなる活気と賑わいが期待されます。

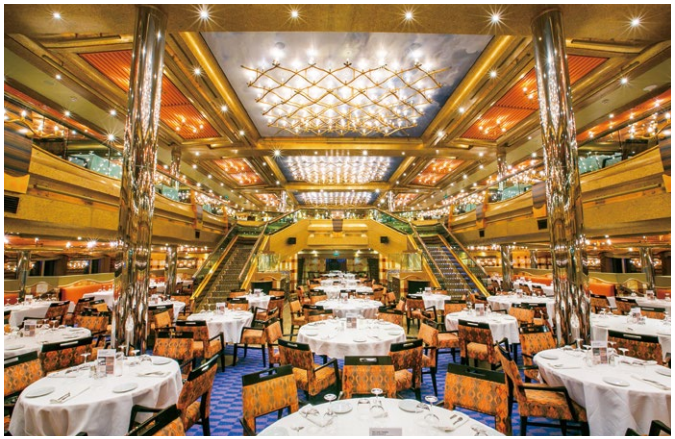
地震からの速やかな復旧で国際クルーズも好調

2024年元日に発生した「令和6年能登半島地震」は、金沢港にも被害を与えました。無量寺ふ頭にある金沢港クルーズターミナルでは地面に段差や陥没が生じたのです。しかし急ピッチで復旧を進め、翌月2月16日には営業を再開。3月24日には2024年最初の客船「アザマラ・ジャーニー」(3万277t、全長181m)を迎え入れることができました。その1週間後には「海の女王」と呼ばれる英国の客船「クイーン・エリザベス」(9万900t、全長294m)も寄港しました。さらに初寄港の船として、「ハンセアティック・スピリット」(1万5,651t、全長139m)、「コスタ・セレーナ」(11万4,261t、全長290m)、「シルバー・ノヴァ」(5万5,051t、全長247m)、「ノルウェージャン・スピリット」(7万5,904t、全長269m)が次々に金沢港にやってきたのです。

こうして2024年に金沢港へ寄港したクルーズ船は、国際クルーズが再開した2023年と同程度の46本、乗客数は過去最多であった2019年の6万3,476人に次ぐ6万1,035人となりました。

好評! コスタクルーズ金沢発着2025年も実施が決定

なかでもイタリアの客船大手コスタクルーズによる金沢港発着クルーズの5年ぶり再開は、コロナ禍と地震からの復興を強く印象づけました。これはコスタ・セレーナで6月15日に出航して韓国・釜山、博多、舞鶴に寄港し19日に戻るもの



コスタ・セレーナ船内の
豪華なメインダイニング

金沢港クルーズターミナル　MAP▸①B-3　●金沢市無量寺町リ-65　☎076-225-7030
営9:00〜21:00(金沢港まなび体験ルーム 9:00〜17:00／レストラン 10:00〜21:00)　休12月29日〜1月3日(レストランは月曜)　¥入館無料

シルバー・シャドーとヘリテージ・アドベンチャラー
2隻同時接岸の様子

能登応援のために特設された販売ブース

長町武家屋敷跡にあり一般公開されている
「武家屋敷跡 野村家」

金箔貼り体験の様子

と、19日に出航して釜山、下関、舞鶴に寄港し23日に戻る2本の航海でした。いずれも土日を含む5日間のショートクルーズで、現役世代を含めたクルーズ初心者も気軽に楽しめるということもあり、乗客定員およそ3,700人にもかかわらず、ほぼ満船に。

この好調ぶりを受けて、2025年6月にもコスタ・セレーナによる金沢港発着クルーズ2本（2日発は3泊・5日発は4泊）が予定されています。コスタクルーズの再開にみられるように、今後ますますクルーズ船の寄港と県民による賑わいで、港に活気があふれることが期待されます。

また、復興に向けた取り組みとして、2024年9月から11月までに計5回、金沢港に寄港したMSCベリッシマ（17万1,598t、全長316m）船内において、地震復興の応援消費の呼びかけが実施されました。地震で被災した事業者が金沢の前日に寄港する秋田から乗船し、金沢に着くまでに被災時の様子や復興状況、地酒や伝統工芸品など自社商品の魅力を乗客に伝え、応援消費を呼びかけたのです。

金沢港到着後のふ頭では、設置したブースに大勢の乗客が詰めかけました。参加した事業者は、「思わぬ反響があり、能登を応援したいと言ってもらえた。復興のスピードアップにつながってほしい」と話していました。

2025年に行くべき世界の旅行先 東アジアで唯一、金沢が選出

富裕層を中心に幅広い読者層を持つ米国の有力旅行メディア2誌が昨秋、世界中の都市の中から注目すべき旅行先として金沢を取り上げました。

「コンデナスト・トラベラー」は職人工房の見学や、武家文化体験、さらには能登半島地震で被災した職人支援など地域社会に貢献する支援を含め、優れた取り組みを続ける都市として金沢を特集。「ナショナルジオグラフィック」は2024年10月に発表した「Best of the World 2025（2025年に行くべき世界の旅行先25選）」において、東アジアでは唯一、金沢を「本物の日本」を体験できる旅行先として選出しました。

金沢は、京都から列車でわずか2時間の城下町で、木造の茶屋街、日本で最も美しい庭園のひとつである兼六園、江戸時代の武家屋敷、また400年の歴史を持つ手作りの芸術品である「金箔」の99%を生産し、繊細な輝きを放つ金箔を使った工芸品作りを体験することができる点などが評価されたとのことです。

国内だけに留まらず、国外からも注目される「金沢」。これからも目が離せません。そして世界の耳目が集まる金沢へ、国際的な客船で訪れることで、また一味違った視点が得られることでしょう。

文／航海作家 カナマルトモヨシ

クルーズ船入港情報についてのお問い合わせ

（一社）金沢港振興協会
☎076-254-0711

きらめく能登の魅力を再び発信していく

震災前の農家民宿群一帯の風景（「春蘭の里」提供）

「春蘭の里」は、能登半島の山あいにある農家民宿群です。地震により大きな被害を受けましたが、少しずつ本来の機能と魅力を取り戻し、再び笑顔で観光客を迎える準備を進めています。

農家民宿群「春蘭の里」とは

日本の原風景が残る能登半島には、里山里海の魅力を活かした田舎体験を提供する宿泊施設が数多くあります。「春蘭の里」の名で知られる能登町宮地地区の農家民宿群はその代表格です。一帯は豪華さや便利さとは無縁ですが、きらめく水と緑があり、心温かな人々がたくましく暮らしています。

令和6年能登半島地震前の春蘭の里では、約50軒の農家民宿がそれぞれ1日1組限定で宿泊客を受け入れていました。田植えに稲刈り、山菜採りにキノコ狩り、鮎のつかみ取りなど、自然豊かな里山を舞台に心と体を動かす一。そんな懐かしくも新鮮な生活体験を求め、国内外から年間1万3,000人余りの観光客が訪れていた春蘭の里ですが、1月1日の地震による揺れと土砂災害により、施設や周辺の住宅などが半壊、全壊するなど大きな被害が出ました。

これまで春蘭の里で提供されてきた、能登の食材盛りだくさんの料理

震災前、伝統的な能登様式の家屋で、囲炉裏を囲んでくつろぐ様子

能登の田舎時間を取り戻す

春蘭の里では震災以前から小水力発電や太陽光発電などエネルギーの自給に取り組んでいたことが功を奏し、ライフラインは比較的早い段階で復旧しました。震災直後は農家民宿の一つを避難所として地域住民に開放し、皆で力を合わせて山の水源から水を引いたそうです。以降、複数の農家民宿を復旧作業に携わる業者やボランティアに貸し出すかたちで営業を再開し、地域住民と支援者とのつながりや交流を育む場となっています。

現在、能登半島一帯で、壊れた建物の解体やがれき撤去などの復旧工事が進んでいます。景観を含めすべてが元通りになるわけではありませんが、世界農業遺産「能登の里山里海」の担い手として、イチから春蘭の里をつくりあげてきた人々はけしてへこたれません。この土地ならではの生業や生活文化、風習を未来へ継承していくべく、復興に向けて少しずつ着実に前進しています。

春蘭の里では2025年度から観光客や修学旅行生の受け入れを再開する予定です。国内外から寄せられる応援のメッセージを糧に、再びきらりと光る能登の魅力を発信していきます。

必ず復活させたい
稲刈りとハサ干し体験

春蘭の里　MAP▶①C-1
●鳳珠郡能登町宮地 ☎0768-76-0021
（春蘭の里事務局）

詳しくはこちら

さらにもっと!

暮らすように石川を楽しむ

重伝建保存地区で田舎暮らし体験を

加賀市山中温泉から車で20分あまりの山奥にある「杉水町」には、快適に滞在できるようリフォームされた貸古民家が2棟あり、自炊すればより本格的な田舎暮らしが体験できます。「赤瓦と煙出しの里」として国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されているここには、評判のそば屋やカフェもあり、食事付きの宿泊も可能です。

古民家の宿 忠平
蔵やど 与平
MAP▶①A-4
●加賀市山中温泉杉水町
☎0761-78-1853
または 090-2834-6388
¥1棟素泊まり4名まで30,000円（5名～8名の場合はお1人7,000円×人数分、それ以上は要相談）。自炊をする場合、簡単な調理器具と調味料は用意してあります。四季折々のイベントも充実

古民家の宿 忠平

農山村の自然と風土を五感で感じる

小学校の改修費を、村民が禁酒による貯金で捻出、工面したことで知られる津幡町河合谷地区。当時の木造校舎をイメージして作られた宿泊体験交流施設です。河合谷の自然環境を活かし、農業体験や自然観察などを通して、農山村の伝統や文化、暮らしの知恵などを五感で感じてもらうためのプログラムが充実しています。

河愛の里 Kinschule（キンシューレ）　MAP▶①B-3
●河北郡津幡町下河合チ55 ☎076-287-1086
宿レストランランチ営業11:00～14:00 休水・木曜、年末年始
※レストランの利用には事前のご予約が必要です

石川で「温泉×それぞれの魅力」を楽しむ

山代温泉に2軒ある公衆浴場のひとつ「古総湯」。明治時代の総湯の外観や内装を復元、「湯あみ」という温泉に浸かって楽しむ当時の入浴方法も再現している

日本人にとって「温泉」は格別な楽しみ方のひとつ。石川にも歴史と情緒ある温泉地が数多くあり、湯と美食と美景のおもてなしで人々の心をつかんでいます。良質の湯と、周辺の自然、歴史・文化、食などの魅力をかけあわせて、さらに深く温泉地ステイを満喫しましょう。

多種多様な温泉地の楽しみ

日本人は古くから温泉の湧き出すところに滞在し、病や傷を癒す湯治文化を育んできました。石川県内でも温泉地ごとに独自の多様性をもち、観光地としての魅力にもあふれています。そこで、2024年3月、北陸新幹線石川県内全線開業により、小松駅、加賀温泉駅からの交通の利便性が高まる加賀温泉郷の山代、片山津温泉はじめ、小松市のあわづ温泉について、「温泉×それぞれの魅力」の楽しみ方を提案します。

ここで紹介する「あわづ温泉」「片山津温泉」「山代温泉」のほか、「山中温泉」については、本誌P42「もっと15」をご覧ください。さらに石川県には白山温泉郷（白山市）、辰口温泉（能美市）、湯涌温泉（金沢市）、和倉温泉（七尾市）、輪島温泉郷（輪島市）ほか、多種多様な魅力にあふれる温泉地が点在しています。旅の始まり、旅のアクセントに温泉地泊を選ぶのも、石川を旅するツウな選択といえるでしょう。

【あわづ温泉×石の文化】

小松市のあわづ温泉は、718（養老2）年開湯の北陸最古の温泉です。白山を開山した泰澄大師が夢のお告げどおりに掘ったところ、温泉が湧き出したという話が伝わります。このとき泰澄が弟子に湯守りを任せた湯治宿は、今も旅館として営業を続けています。

あわづ温泉からほど近い那谷寺は、同じく泰澄が717（養老元）年に開創した古刹で、あわづ温泉とともに1300年以上の歴史があります。小松は日本遺産に認定された「石の文化」のまち（※本誌P22参照）で、石にまつわる多彩なスポットがあり、那谷寺もそのひとつ。岩山の斜面に建てられた本殿・大悲閣（国指定重要文化財）や奇岩遊仙境（国指定名勝）が、独特の景観を生み出しています。

国指定重要文化財の那谷寺本殿・大悲閣

那谷寺の見どころのひとつ奇岩遊仙境

開湯1300年の歴史を誇るあわづ温泉旅館のひとつ

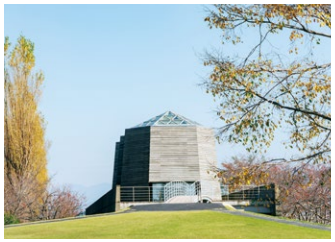
【片山津温泉×現代建築】

柴山潟のほとりの片山津温泉は、江戸時代に湖底の温泉が発見され、明治に入って温泉地として開発されました。ミネラル成分を多く含む湯は疲労回復効果が期待されます。加えて、白山を望む柴山潟湖畔の美しい景観とともに、環境を取り込んで設計された建築物に出合えるのも魅力のひとつ。

ガラス張りの外観の総湯（共同浴場）は、国内外のミュージアムの設計で知られる建築家・谷口吉生氏によるもの。浴室から眺める風景は一枚の絵画のようです。

「中谷宇吉郎　雪の科学館」は、世界で初めて人工雪を作ることに成功した当地出身の科学者・中谷宇吉郎を記念する施設で、建築界のノーベル賞といわれるプリツカー賞を受賞した磯崎新氏の設計です。

柴山潟の湖畔にたたずむガラス張りの建物の加賀片山津温泉総湯



柴山潟と白山を借景として建つ中谷宇吉郎雪の科学館 ※

柴山潟から望む白山

※和倉温泉、輪島温泉郷については、「令和6年能登半島地震」による被害により、2025年2月現在、復旧・復興への取り組みが進められています。

※令和6年能登半島地震による施設被害復旧工事のため、2025年4月1日～2026年3月31日の期間は休業

【山代温泉 × ご当地グルメ】

2025年、開湯1300年を迎えた山代温泉は、白山へ向かう途中の行基が発見したと伝わります。江戸時代には総湯を囲むように宿が立ち並ぶ、「湯の曲輪（がわ）」とよばれるまちなみが形成され、今もその情緒あふれる景観が見られます。再興九谷の拠点としても知られ、ここで陶芸の手ほどきをうけた北大路魯山人の足跡も残る、そぞろ歩きが楽しい温泉地です。

山代温泉を訪れたなら、新しいご当地グルメをお見逃しなく。ランチには橋立漁港で水揚げされた雌のズワイガニを使った「加賀カニごはん」を、3時のおやつには地場の食材を使って5層に仕上げた「加賀パフェ」を楽しめます。うつわは九谷焼と山中漆器を使用しており、伝統工芸の魅力も味わえます。

ライトアップされた山代温泉古総湯

一度は食べたい「加賀パフェ」（上）と「加賀カニごはん」（下）

がんばろう! 和倉温泉

震災後の復旧がすすむ和倉温泉では、21軒ある旅館のうち、2025年2月現在すでに4軒が営業を再開するなか、今後もお客様をお迎えできる旅館が増える予定です。利用できる飲食店や商店も増えており、旅のおでかけ候補として、最新の「和倉温泉」情報をチェック&ぜひ来訪を!

通常営業している和倉温泉総湯
●七尾市和倉町ワ6-2 ☎0767-62-2221

和倉温泉
最新情報は
こちらから

日本の温泉文化をユネスコ無形文化遺産へ

石川県では、温泉文化のユネスコ無形文化遺産登録の早期実現を目指し、賛同する知事らでつくる「温泉文化」ユネスコ無形文化遺産登録を応援する知事の会の活動に取り組んでいます。持続可能な温泉地の活性化につなげるとともに「ONSEN」のブランド化を図っていきます。

「温泉/ONSEN シンボルマーク」のロゴ（「温泉文化」ユネスコ無形文化遺産全国推進協議会）

ONSEN
blessing of Japan, nature, culture

八重洲 いしかわテラス

石川県産の素材をふんだんに用いた店内で、食品や雑貨、伝統的工芸品などの特産品の販売はもちろん、観光情報の発信や多彩なイベントの開催などを行う石川県のアンテナショップです。東京八重洲で石川県を実感してみませんか。

地酒や食の魅力を提供

観光コンシェルジュがご案内

東京都中央区八重洲2-1-8　八重洲Kビル1階
☎03-6225-2177
営業時間/10:30～20:00　年中無休（年末年始除く）

アクセス
■東京駅（JR）八重洲中央口から4分
■京橋駅（東京メトロ銀座線）8番口から4分
■日本橋駅（東京メトロ銀座線・東西線／都営浅草線）B3口から5分
■ヤエチカ26番出口そば

富山・石川・福井情報発信拠点 HOKURIKU ホクリクプラス

2024年7月、KITTE大阪にオープンした北陸三県の情報発信拠点です。北陸の特産品や伝統工芸品を取り揃えた物販エリア、地酒やつまみを味わえるバーエリア、コンシェルジュが常駐する観光情報発信エリアなどに分かれ、北陸の旬の観光情報をお届けします。

石川の魅力が詰まった物販スペース

観光情報発信スペース

大阪府大阪市北区梅田3-2-2　KITTE大阪2階
☎06-6690-8813
営業時間/11:00～20:00　年中無休（年末年始除く）

アクセス
■大阪駅（JR）西口直結　■北新地駅（JR）から7分
■西梅田駅（大阪メトロ四ツ橋線）から5分
■梅田駅（大阪メトロ御堂筋線）から5分
■東梅田駅（大阪メトロ谷町線）から8分
■阪神梅田駅から5分　■阪急梅田駅から8分

写真提供

珠洲市／輪島市／能登町／志賀町／七尾市／中能登町／宝達志水町／内灘町／金沢市／白山市／小松市／加賀市／（一社）金沢市観光協会／（一社）白山市観光連盟／（一社）こまつ観光物産ネットワーク／能登島観光協会／加賀市観光情報センター KAGA旅・まちネット／石川県金沢城・兼六園管理事務所／（一財）石川県県民ふれあい公社／石川県白山自然保護センター／石川県自然解説員研究会／PIXTA　ほか

●本文に掲載している住所・電話番号・営業時間・定休日・料金などの表記情報は2024年2月～2025年2月時点で確認したものです。発行後に内容が変更となる可能性があります。
●料金は消費税込み表記です。

□表記記号一覧
☎…電話番号　営…営業時間　¥…入館料・入園料など（無料の場合や団体割引などは省略）　休…定休日など（年末年始の日にち詳細、臨時休業、お盆休みは省略）

もっと石川
石川でしかできない上質な旅
2025年3月発行

■発行元
（公社）石川県観光連盟
〒920-8580 金沢市鞍月1丁目1番地
TEL 076-201-8110
FAX 076-201-8280

＜必ずお読みください＞
掲載の写真およびイラストはイメージです。気候や自然条件などにより掲載記事・写真と同様の景色が見られない場合があります。ガイドブックに掲載された内容により生じたトラブルや損害などについては保証いたしかねますのでご了承ください。

おいしい いしかわ

食べものガイド

石川県の気候や風土、文化は魅力的な食文化を数多く生み出してきました。山・海の幸から先人の知恵が詰まった発酵食、個性的なご当地グルメや改良を重ねたブランド品種など、地元の人に愛されてきた石川の食をめしあがれ。

※能登の食べものに関する本文および掲載画像等の情報は 2025 年 2 月現在のもので、最新の状況には対応していないことをご了承ください。

野菜&果物

原木の養分をたっぷり蓄えた濃厚な味

のとてまり

大型で肉厚なのが特長の能登産原木しいたけ「のと 115」。その中でも、さらに厳しい規格を満たした最高のしいたけが「のとてまり」です。一つひとつ手間暇かけて栽培され、肉厚の食感と深い旨味に優れています。出荷は 12 月下旬～ 3 月末。

奥能登原木しいたけ活性化協議会 ☎ 076-240-5345

丹精込めて栽培された懐かしの味

小松とまと

春から秋にかけて太陽の恵みをたっぷりと受けて育った小松とまとは、果肉が柔らかく、ほどよい酸味も特長です。カレーやジャム、ジュレなど加工品も豊富で、栄養たっぷりのトマトのおいしさが季節を問わず楽しめます。

おいしくてユニークなレシピを集めた冊子もWEBで公開中！

小松市農林水産課 ☎ 0761-24-8080

「手間・暇」かけて作る伝統の味の干し柿

能登志賀ころ柿

能登志賀ころ柿の原料となる「最勝柿」は、肉質が緻密で柔らかいのが特長です。一つひとつ皮を剥き、風通しの良い場所に吊るしながら、時間をかけて自然乾燥させ風味を加えます。最後は丁寧に「手もみ」を行い羊羹のような食感に仕上げる志賀町の特産品です。年末の贈答用として人気があります。

JA 志賀 ☎ 0767-32-1155

魚介類&食肉

プリプリの身には旨みがたっぷり！

伝統の素潜り漁でとる天然ガキ

夏の岩ガキ

「夏ガキ」とも呼ばれ、6 月下旬～ 8 月上旬が食べ頃です。一般的に冬場が旬のマガキよりも大ぶりで、プリプリの食感と濃厚な味わいが特徴です。海底の岩について成長するため、海士さんが一つひとつ採取しています。

石川県漁業協同組合 ☎ 076-268-1410

海女さんがとる海のお宝

輪島海女採りあわび・さざえ

輪島市沖合の舳倉島（へくらじま）・七ツ島周辺では、7 月から 9 月にかけて海女さんが素潜り漁を行っています。天然のアワビは身が厚く、甘さや歯ごたえの強さが特徴。岩場でとれるサザエは砂噛みが少なく、ワタまでおいしく味わえます。

石川県漁業協同組合 輪島支所 ☎ 0768-22-1485

伝統猟法で捕らえる天然鴨

坂網鴨

石川県有形民俗文化財に指定される伝統猟法「坂網猟」で捕った野生の鴨を「鴨のじぶすき」などの郷土料理で食します。年間 200 羽前後しか捕れず、冬にしか食べられない貴重な味わいは「究極」とも言われます。

加賀市観光情報センター KAGA 旅・まちネット ☎ 0761-72-6678

農薬不使用の希少な果実

国造（こくぞう）ゆず

農薬や化学肥料を使わず有機肥料だけで栽培され、生産量は多い年でも年間約 10 トンと希少なゆず。毎年 11 月に開かれる「国造ゆずまつり」では、生のゆずやジャム、ジュースなどの加工食品、ハンドクリームなどの化粧品が販売されます。

ゆず果汁100%！

能美市産業交流部農林課 ☎ 0761-58-2256

ジューシーで上品な甘さのなし

加賀しずく

2017 年に市場デビューした新品種のなしです。よく知られる幸水より一回り大きく、酸味をおさえた上品な甘みとなめらかな食感が特長。金沢市、白山市、加賀市が産地で、8 月下旬～ 9 月中旬が旬。

石川県農林水産部ブランド戦略課 ☎ 076-225-1614

艶のある赤色が鮮やかな激辛唐辛子

剣崎なんば

剣のように先が尖った形状が特徴的な唐辛子。鷹の爪など普通の唐辛子と比べると長く、大きなものでは 15cm にもなります。激辛ですが後味はほのかに甘く感じられ、一味唐辛子、なんば味噌、葉つくだ煮、カレーなどの加工品も人気です。

白山市地産地消課 ☎ 076-274-9522

石川生まれの日本一高級なぶどう

ルビーロマン

初競りで一房 100 万円を超える高値をつけたことでも知られる「ルビーロマン」。鮮やかな赤色をした果粒を一粒口に入れれば、酸味の少ない甘い果汁が口の中にたっぷり広がります。出荷の最盛期は 8 月中旬～ 9 月中旬。

石川県農林水産部ブランド戦略課 ☎ 076-225-1614

古くから受け継がれる伝統野菜

加賀野菜

金沢には藩政期から親しまれてきた伝統野菜があり、15 品目が「加賀野菜」として認定されています。金沢の気候、風土に育まれてきた加賀野菜は、伝統料理をはじめとしたさまざまな料理で楽しめます。

金沢市農産物ブランド協会 ☎ 076-222-0831

金沢市農産物ブランド協会

発酵文化&ご当地グルメ

石動山系の清らかな水で仕込む里山の酒

中能登町のどぶろく

どぶろく醸造の認められた神社が 3 社ある中能登町。全国有数ともいえるその数から、「どぶろく特区」に認定されています。12 月 12 日にはシーズンの到来を告げる「どぶろく宣言」が出され、新酒が楽しめる 12 ～翌 2 月は町内でさまざまなイベントが開かれます。

町内の道の駅や農家レストランで購入可能！

中能登町企画課 ☎ 0767-74-2806

金沢市民が愛する調味料

大野醤油

北前船の寄港地であった金沢の大野地区では、小麦や大豆、塩などの調達が容易であり、藩政時代より醤油産地として栄えました。現在でも醸造業者が残り、金沢の料理屋の多くが大野醤油で味をまとめているといわれています。

大野醤油醸造協業組合 ☎ 076-268-1301

甘さの中に醤油の香り！

登録無形民俗文化財

いしり・いしる

能登の魚醤はうま味たっぷり！

「いしり」や「いしる」などの呼び名がある能登の魚醤は、イワシ等の魚、イカの内臓を塩とともに 1 年以上発酵させる伝統製法で作られています。煮物はもちろん、パスタや炒めものにも使える万能調味料です。

能登いしり・いしる生産者協議会 ☎ 0768-62-0181

多彩なバリエーションで能登の幸を堪能

西能登おもてなし丼

志賀町をはじめとした能登の新鮮な食材をふんだんに使うのはもちろん、おもてなしの心も盛り込んだご当地メニュー。丼だけでなく、重、御膳、プレートなど料理や提供のバリエーションも豊富です。

志賀町観光協会 ☎ 0767-42-0355

町内の各店舗で多くのメニューが味わえます

「オムライスの父」の故郷にちなんだ

宝達志水オムライス

宝達志水町出身のシェフ・北橋茂男氏が考案したといわれるオムライス。その縁から宝達志水町は「オムライスの町」と呼ばれるようになりました。町内各店舗で特色あるオムライスが堪能できます。

宝達志水町商工観光課 ☎ 0767-29-8250（平日のみ）

お店ごとに特色ある味を楽しんでみて！

卵かけご飯を香ばしくアレンジ

つるぎ TKGY

TKGYはT=たまご、K=かけ、G=ごはん、Y=焼きの略称。石川県産米を白山麓の伏流水で研ぎ、鶴来由来の醸造品（醤油・味噌・酒・酢）で調理します。だしを利かせ、焼きおにぎり風に焼き上げた味わい深いご当地グルメです。

鶴来商工会 ☎ 076-273-2211

各店が工夫を凝らしています！

能登産ブドウを使用

能登ワイン

穴水町には日本海側最大級のブドウ畑があり、単一品種のブドウを用いた本格的な生ワインが製造されています。「日本ワインコンクール」で金賞を受賞するなど、能登産ブドウと醸造技術は全国でも高く評価されています。

能登ワイン
📍 鳳珠郡穴水町旭ケ丘リ 5-1
☎ 0768-58-1577 🕒 9:00 ～ 17:00（12 ～翌 2 月は 16:30 まで） 休 年末年始（12/31 ～ 1/2）

野々市キウイから作られたワイン・醸造酢

キウイフルーツワイン・キウイフルーツビネガー

野々市市特産の完熟キウイだけを使ったワインは、やや甘口で程良い酸味を感じるフルーティーな味わいが特徴。フルーツビネガーは、キウイ独特のさわやかな甘酸っぱさが感じられる果実酢に仕上がっています。

ＪＡののいち ☎ 076-248-8954

香り高い、県民が愛するお茶

加賀の棒茶・加賀の紅茶

茶葉ではなく茎を焙じた「棒茶」は、香ばしさとすっきりした飲み口で県民の普段使いの茶として親しまれています。2009 年に誕生した「加賀の紅茶」は、加賀産茶葉を 100％使っており、コクがあり果実のような香りが特徴です。

打越製茶農業協同組合 ☎ 0761-74-0390（日曜 8:30 ～ 12:30 のみ）

特産ミルクを生かしたオリジナルメニュー

ミルク王国ウチナダ

濃厚な牛乳の旨味が自慢です！

県内の牛乳生産量の過半数を占める内灘町では、おいしいミルクを味わってほしいとの思いから「ミルク王国ウチナダ」が誕生。認定店ではソフトクリームにカレー、ラーメンまでオリジナルメニューが揃います。

内灘町商工会 ☎ 076-286-4200

五感で味わう季節の甘味

金沢の和菓子

藩政期より和菓子文化が根付く金沢では、茶の湯で供する上生菓子のほか、季節ごとの和菓子も充実。お正月の「福梅」「辻占」や、ひな祭りに欠かせない「金花糖」（写真）など、四季を五感で楽しむ金沢の和菓子をぜひお楽しみあれ。

石川県菓子工業組合 ☎ 076-225-7077

小松市民のソウルフード

小松塩焼きそば

60 年以上の歴史の中で小松市民に愛されてきた小松塩焼きそば。地元の製麺所で作られた太麺に新鮮なもやし、地元産のネギを加え、塩と醤油で味と香りをつけ、人参が彩りを添えたもので、小松市内の 6 軒の中華料理店で提供されています。

小松市商工労働課 ☎ 0761-24-8074

金沢市民が愛する名物洋食料理

ハントンライス

金沢市のレストランが発祥とされるハントンライスは、ケチャップライスを薄焼き卵でくるみ、魚介のフライを乗せ、タルタルソースやケチャップをかけたものが代表的。お店によって作り方も異なり、いろんな味が楽しめます。

写真提供：グリルオーツカ

お問い合わせ

《観光案内》

（公社）石川県観光連盟	(076)201-8110
金沢駅観光案内所	(076)232-6200
金沢中央観光案内所	(076)254-5020
石川県観光戦略課	(076)225-1542
（一社）金沢市観光協会	(076)232-5555
（協）兼六園観光協会	(076)221-6453
ＮＰＯ法人　能登すずなり	(0768)82-4688
（一社）能登半島広域観光協会	(0768)26-2020
能登島観光協会	(0767)84-1113
能登の旅情報センター（のと里山空港内）	(0768)26-2555
輪島市観光協会	(0768)22-6588
（一社）志賀町観光協会	(0767)42-0355
ななお・なかのとＤＭＯ	(0767)62-0900
はくい市観光協会	(0767)22-5333
（一社）白山市観光連盟	(076)259-5893
白山市観光情報センター	(076)273-4851
加賀市観光情報センターKAGA旅・まちネット	(0761)72-6678
（一社）こまつ観光物産ネットワーク	(0761)21-8208
わじま観光案内センター	(0768)22-1503

《県外観光案内》

八重洲いしかわテラス	(03)6225-2177
ＨＯＫＵＲＩＫＵ＋	(06)6690-8813
石川県東京事務所	(03)5212-9168
石川県大阪事務所	(06)6363-3136
石川県名古屋観光物産案内所	(052)261-6067

《ホテル・旅館》

石川県旅館ホテル生活衛生同業組合	(076)263-5777
金沢市旅館ホテル協同組合	(076)221-1147

《温泉》

（一社）山中温泉観光協会	(0761)78-0330
（一社）山代温泉観光協会	(0761)77-1144
片山津温泉観光協会	(0761)74-1123
粟津温泉観光協会	(0761)65-1834
湯涌温泉観光協会	(076)235-1040
和倉温泉観光協会	(0767)62-1555

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の 50 万分 1 地方図を複製したものである。（承認番号　平 26 情複、第 720 号）